

平成30年度

埼玉県特別支援教育教育課程編成要領

「特別支援学校幼稚部編」



平成30年3月

埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課



## 目次

第1節	幼稚園教育要領改訂の概要	1
1	幼稚園における教育の基本	1
2	幼稚園における教育の目標	1
3	幼稚園における教育において育みたい資質・能力	2
4	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	2
5	主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた幼児教育における学びの過程 (5歳児後半の時期)のイメージ	3
6	カリキュラム・マネジメント	4
第2節	教育課程の役割と編成等	5
1	教育課程の役割	
2	各学校における教育の目標と教育課程の編成	
3	教育課程の編成上の基本事項	
4	教育課程編成上の留意事項	
5	小学部または小学校での教育との接続に当たっての留意事項	
6	全体的な計画の作成	
第3節	指導計画の作成及び幼児理解に基づいた評価	6
(図)	指導計画作成から評価、改善までの流れのイメージ	6
1	指導計画の考え方	6
2	指導計画作成上の基本的事項	7
3	指導計画作成上の留意事項	7
4	幼児理解に基づいた評価の実施	7
5	特に留意する事項	8
第4節	埼玉県における特別支援学校幼稚園で育みたい力	9
第5節	視覚障害特別支援学校で大切にしたい支援	10
1	視覚障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援	10
2	視覚障害のある幼児への支援や配慮の工夫例	11
3	視覚障害特別支援学校幼稚園の日課表例	13
4	視覚障害のある幼児の保護者支援の実際	14
5	早期教育相談	15
6	視覚障害特別支援学校幼稚園における学びに応じた実践事例	
(1)	視覚障害特別支援学校の年間指導計画例	16
(2)	視覚障害特別支援学校の日案例	17
(3)	視覚障害特別支援学校の指導案例 設定遊び(感触・製作遊び、運動遊び、音楽遊び)	19
第6節	聴覚障害特別支援学校で大切にしたい支援	25
1	聴覚障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援	25
2	聴覚障害のある幼児への支援や配慮の工夫例	26
3	聴覚障害特別支援学校幼稚園の日課表例	28
4	聴覚障害のある幼児の保護者支援の実際	29
5	早期教育相談	29
6	聴覚障害特別支援学校幼稚園における学びに応じた実践事例	
(1)	聴覚障害特別支援学校の年間指導計画例	31
(2)	聴覚障害特別支援学校の日案例	32
(3)	聴覚障害特別支援学校の指導案例 学級活動(朝の会)、学年・学級活動(歌・リズム遊び)、 学年活動(絵本の読み聞かせ・ごっこ遊び)	34

## 第1節 幼稚園教育要領改訂の概要

### 1 幼稚園における教育の基本

※引用：特別支援学校幼稚園教育要領 第1章 総則 第1 幼稚園における教育の基本

- (1) 生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、学校教育法第72条に規定する目標の達成のため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行う教育を基本とする。
- (2) 教師は、幼児期の教育における見方・考え方を生かし、よりよい教育環境を創造するように努めるものとする。

#### 幼児期の教育における見方・考え方とは

幼児が身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤をしたり、思いを巡らしたりすることである。

#### よりよい教育環境のために

- ① 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。  
※考慮点：幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより、発達に必要な体験を得ていくものであること。
- ② 遊びを通しての指導の中心として、「健康、人間関係、環境、言葉及び表現」「自立活動」に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。  
※考慮点：幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基盤を培う重要な学習であること。幼児期には諸能力が個別に発達していくのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくものである。具体的な指導の場面では、遊びの中で幼児が発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、発達にとって必要な経験が得られるような状況をつくることを大切にすること。
- ③ 幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること。  
※考慮点：幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なること。

- (3) 教師は、幼児の主体的な活動が確保されるよう幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。

#### 計画的な環境構成の際の留意点

- ① 教師は、幼児と人や物との関わりが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。
  - ② 幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割を果たし、その活動を豊かにしなければならない。
- ※教師自身も環境の一部である。教師の動きや態度は幼児の安心感の源であり、幼児の視線は常に教師に注がれていることが少なくない。教師がモデルとして、物への関わり方を示すことで幼児の興味や関心が生み出される。

### 2 幼稚園における教育の目標

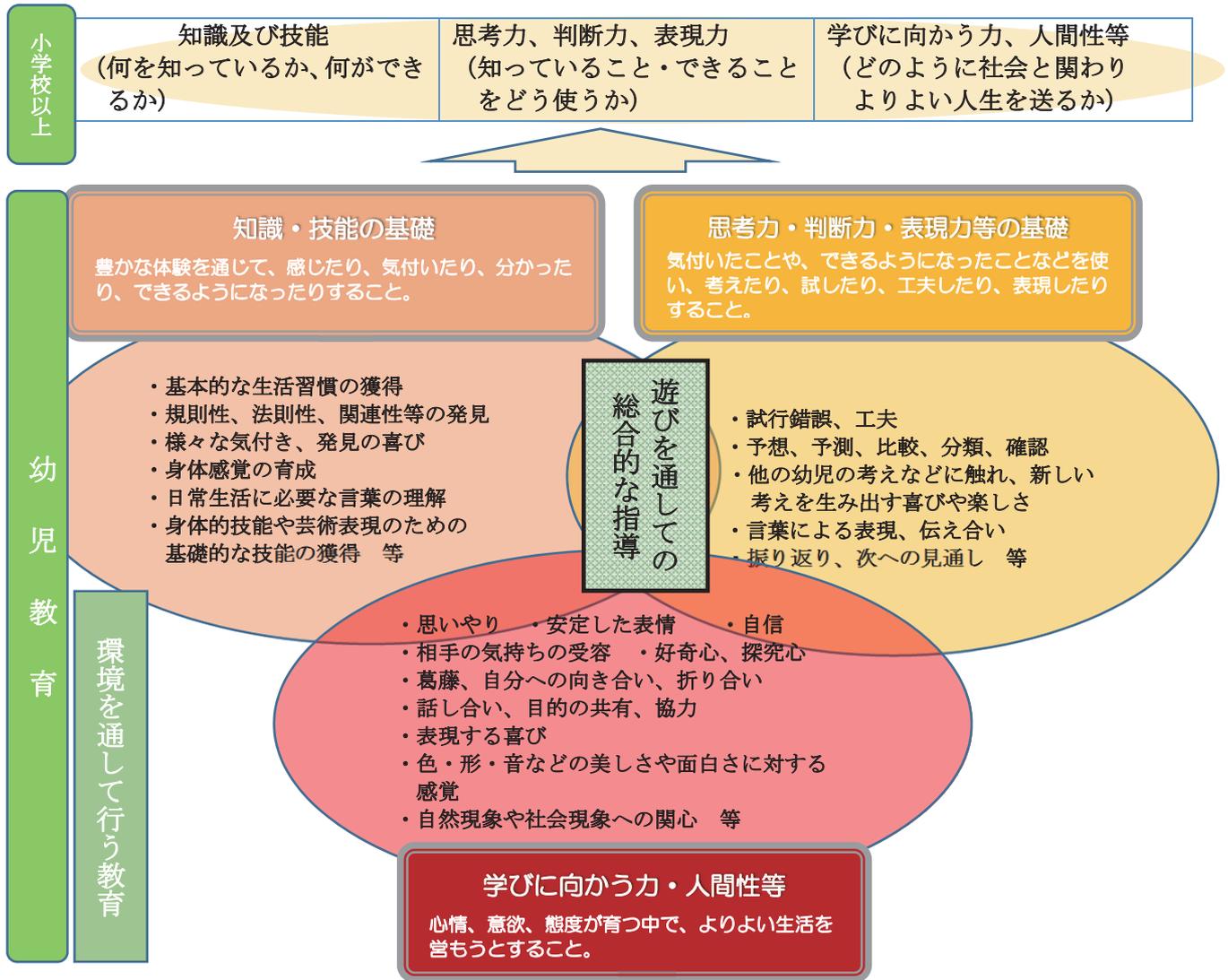
※引用：特別支援学校幼稚園教育要領 第1章 総則 第2 幼稚園における教育の目標

幼稚園では、家庭との連携を図りながら、幼児の障害の状態や特性及び発達の程度等を考慮し、幼稚園における教育の基本に基づいて展開される学校生活を通して、生きる力の基礎を育成するよう次の目標の達成に努めなければならない。

- 1 学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標
- 2 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立を図るために必要な態度や習慣などを育て、心身の調和的発達の基盤を培うようにすること。

### 3 幼稚園における教育において育みたい資質・能力

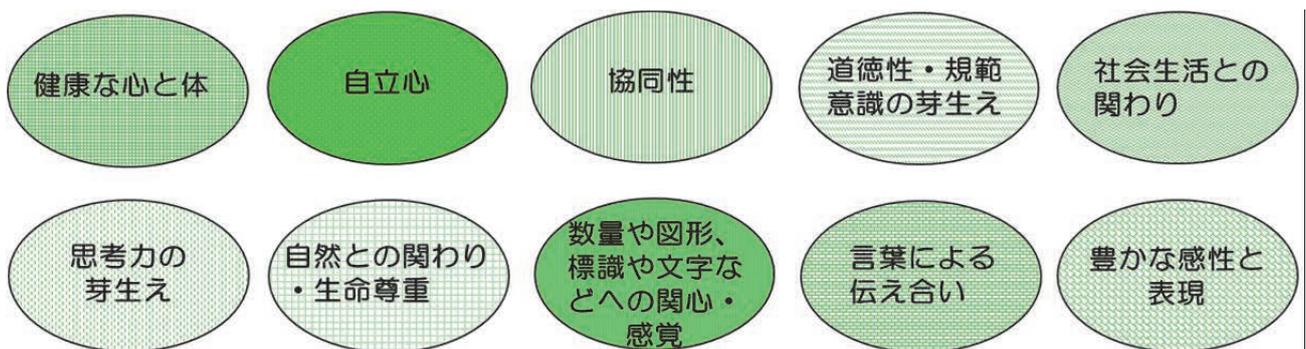
参考：平成29年7月幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針 中央説明会資料幼稚園関係資料



### 4 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

参考：平成29年7月幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針 中央説明会資料幼稚園関係資料

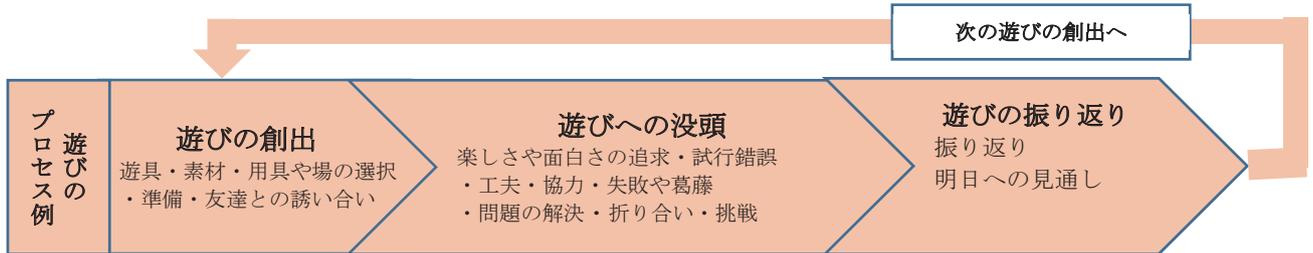
幼稚園教育要領の5領域（健康、人間関係、環境、言葉及び表現）及び、自立活動の6区分（健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーション）に示す「ねらい、内容」に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。



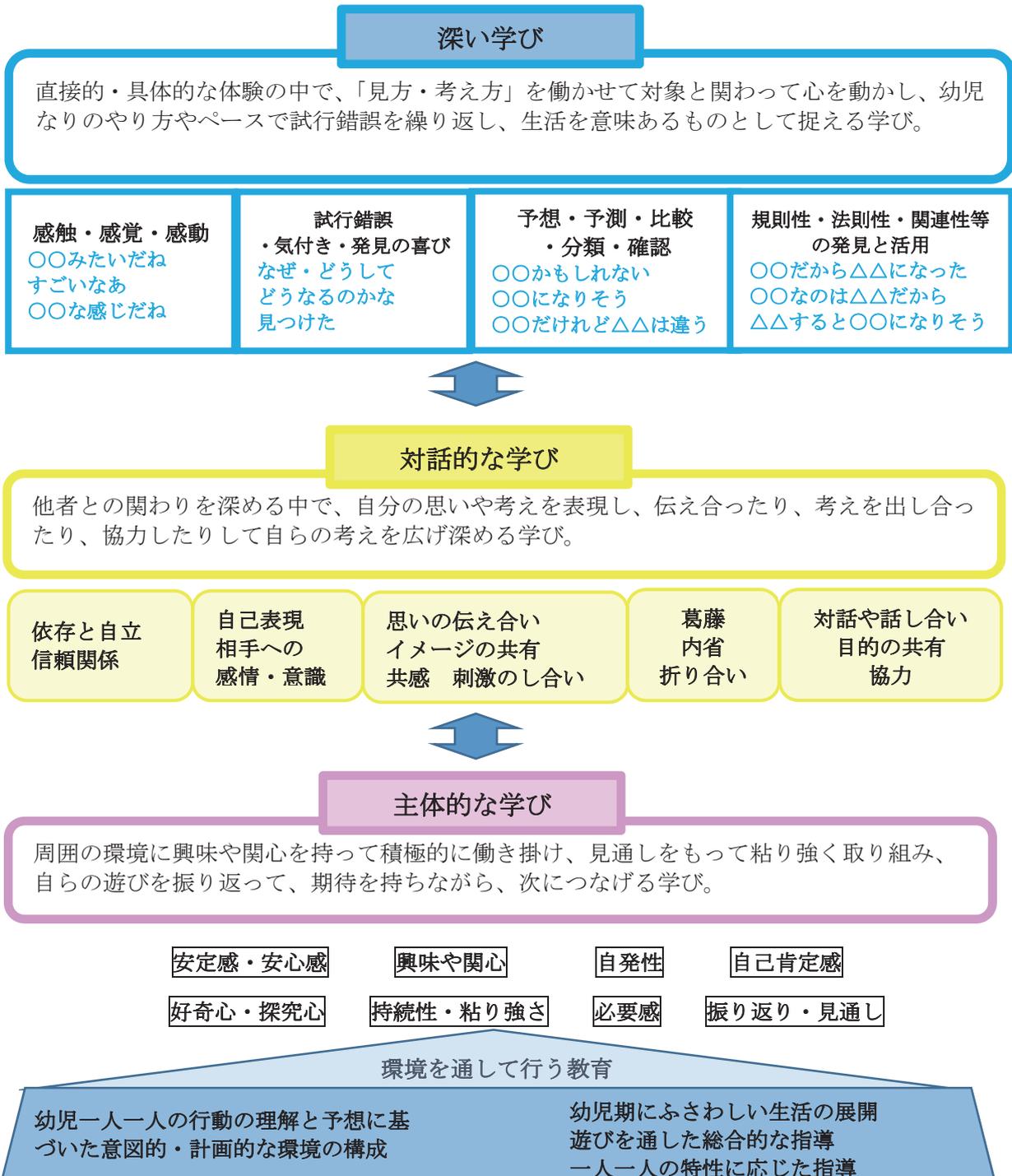
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや個別に取り出されて指導するものではないことに留意が必要。

## 5 主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた幼児教育における学びの過程（5歳児後半の時期）のイメージ

参考：平成29年7月幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針 中央説明会資料幼稚園関係資料

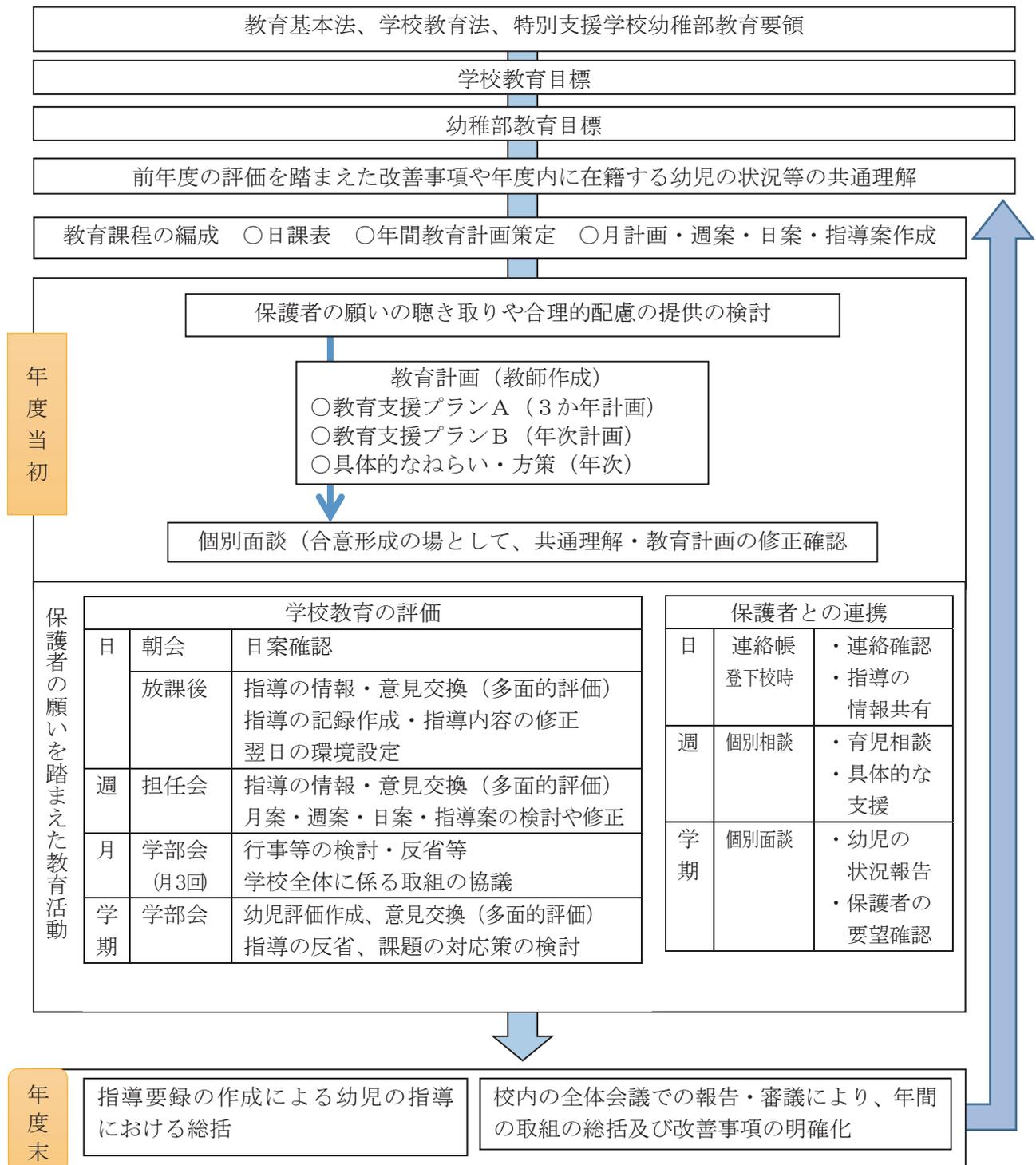


※幼児教育における重要な学びとしての遊びは、様々な形態で構成されており、下に示す3つの学びの過程と関連させながら学びの広がりを意識した指導計画が望まれる。



## 6 カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントとは、教育内容の質の向上に向けて教育課程を軸とした学校教育の改善・充実を図るものである。



※教育支援プランA（個別の教育支援計画）とは、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な支援を行うために、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫し、教育・福祉・医療・労働等の関係機関が連携して支援するための計画である。

※教育支援プランB（個別の指導計画）とは、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒一人一人のニーズを具体的な指導・支援に反映させるための計画である。この教育的ニーズには、本人や保護者の願い、子供の障害の状態、ねらいなどが含まれる。これらに応じたきめ細やかな指導・支援を行うために、指導目標・内容・支援の方法などを盛り込み、学校などで作成する。

## 第2節 教育課程の役割と編成等

※引用：特別支援学校幼稚部教育要領第1章 総則 第4 教育課程の役割と編成等

### 1 教育課程の役割

各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの特別支援学校幼稚部教育要領の示すところに従い、創意工夫を生かし、幼児の障害の状態や特性及び発達程度並びに学校や地域の実態に即応した適切な教育課程を編成するものとする。

### 2 各学校における教育の目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、幼稚部における教育において育みたい資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。

### 3 教育課程の編成上の基本事項

#### (1) 具体的なねらいと内容の組織

幼稚部における生活の全体を通して5領域及び自立活動に示すねらいが総合的に達成されるよう教育期間や幼児の生活経験、発達の過程などを考慮して、具体的なねらいと内容を組織するものとする。

#### (2) 長期的な視野

幼児期の発達の特性を踏まえ、入学から修了に至るまでの長期的な視野をもって充実した生活が展開できるように配慮するものとする。

#### (3) 教育週数

幼稚部の毎学年の教育課程に係る教育週数は、39週を標準とし、幼児の障害の状態や特性及び発達程度等を考慮して適切に定めるものとする。

#### (4) 教育時間

幼稚部の1日の教育課程に係る教育時間は、4時間を標準とする。ただし、幼児の障害の状態や特性及び発達程度等を考慮して適切に定めるものとする。

### 4 教育課程編成上の留意事項

#### (1) 入学当初の配慮

入学当初、特に3歳児の入学については、家庭との連携を緊密にし、生活のリズムや安全面に十分配慮する。満3歳児の学年の途中からの入学に際しては、安心して生活を過ごすことができるよう配慮する。

#### (2) 安全上の配慮

教職員による協力体制の下、幼児の主体的な活動を大切にしつつ、校庭や校舎などの環境の配慮や指導の工夫を行う。

### 5 小学部または小学校での教育との接続に当たっての留意事項

#### (1) 小学校以降の生活や学習の基礎の育成

小学部又は小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮する。

#### (2) 小学部又は小学校における教育との円滑な接続

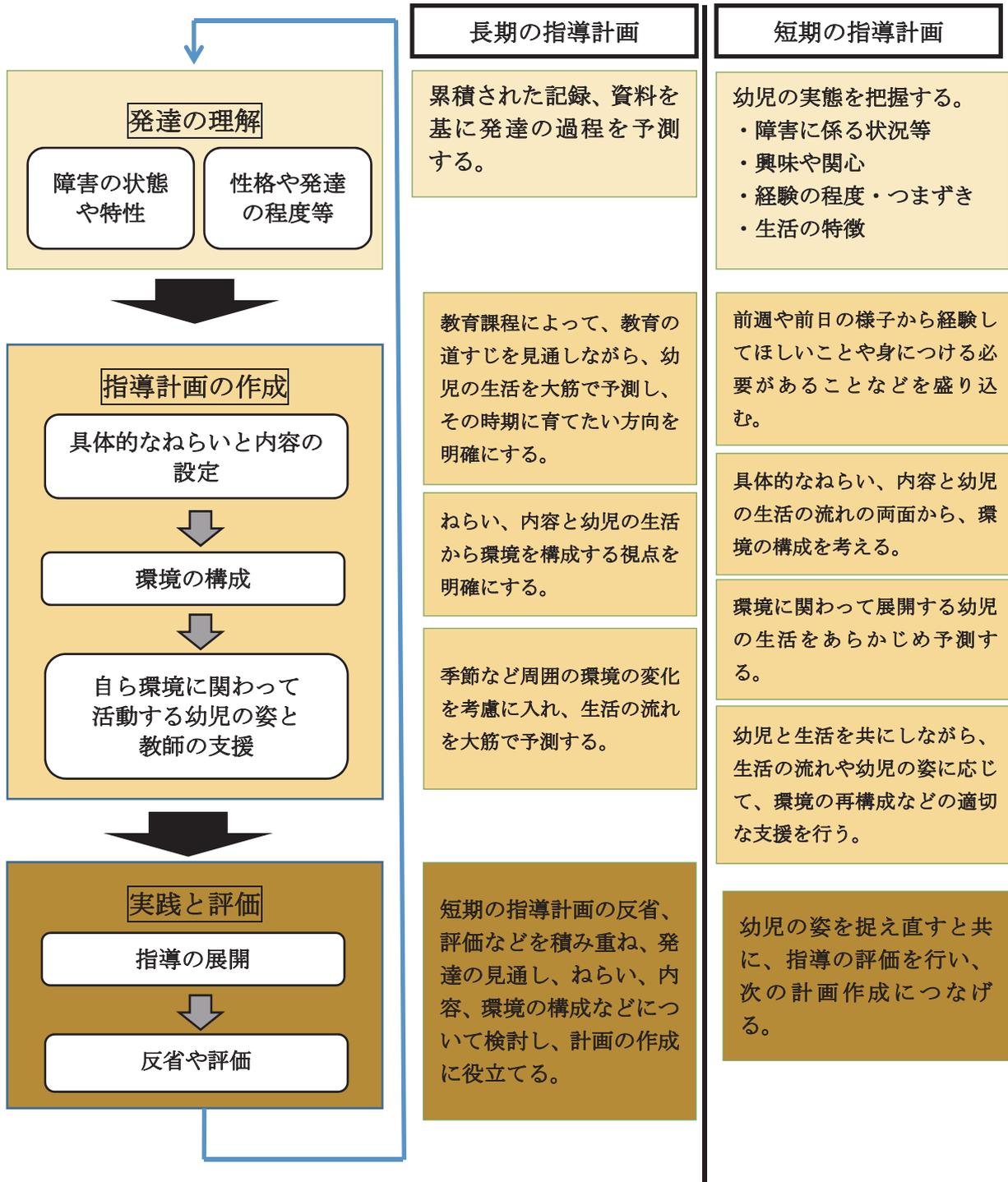
小学部又は小学校との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図る。

### 6 全体的な計画の作成

教育課程と学校保健計画、学校安全計画などを関連させ、一体的な教育活動が展開されるよう全体的な計画を作成する。

### 第3節 指導計画の作成及び幼児理解に基づいた評価

※参考：特別支援学校幼稚部教育要領第1章 総則 第5 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価  
【指導計画作成から評価、改善までの流れのイメージ】



#### 1 指導計画の考え方

- (1) 幼児が自ら意欲をもって環境と関わることにより作り出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものとする。
- (2) 適切な指導が行われるよう、組織的・発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならない。
- (3) 個別の指導計画に基づいて行われた活動の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努める。

## 2 指導計画作成上の基本的事項

### (1) 具体的な指導計画の作成

指導計画は、幼児一人一人の発達に即して一人一人の幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成するものとする。

### (2) 具体的なねらい及び内容

具体的なねらい及び内容は、幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して幼児の障害の状態や特性及び発達の程度や経験の程度、興味や関心などに応じて設定する。

### (3) 環境の構成

環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるよう構成する。幼児が生活する姿や発想を大切にし、常にその環境が適切なものとなるようにする。

### (4) 評価と指導計画の改善

幼児の行う具体的な活動については、幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化等に即して指導の過程についての評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図るものとする。

## 3 指導計画作成上の留意事項

### (1) 長期の指導計画と短期の指導計画

長期的に発達を見通した年、学期、月など長期の指導計画との関連を保ちながらより具体的な幼児の生活に即した週や日などの短期の指導計画を作成する。

### (2) 体験の多様性と関連性

幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びの実現ができるようにすると共に、心動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚部における生活が充実するようにする。

### (3) 言語活動の充実

幼児の実態を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図る。

### (4) 見通しや振り返りの工夫

幼児が次の活動への期待や意欲をもつことができるよう、幼児の実態などを踏まえながら、教師や他の幼児と共に遊びや生活の中で見通しをもったり、振り返ったりするよう工夫する。

### (5) 行事の指導

行事の指導に当たっては、幼稚部における生活の流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにする。なお、それぞれの行事についてはその教育的価値を十分検討し、適切なものを精選し、幼児の負担にならないようにする。

### (6) 情報機器の活用

幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど、情報機器を活用する際には、幼稚部生活では得難い体験を補完する等、幼児の体験との関連を考慮する。

### (7) 教師の役割と活動場面に応じた適切な指導

教師が理解者、共同作業員など、様々な役割を果たし、教師が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、幼児の発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて、適切な指導を行うようにする。

### (8) 幼稚部全体の教師による協力体制

学校全体の教師による協力体制を作りながら、一人一人の幼児が興味や欲求を十分に満足させるよう適切な援助を行うようにする。

## 4 幼児理解に基づいた評価の実施

### (1) 評価の実施

幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにする。その際、他



(4) 幼児に適切な指導を行うため留意事項

早期からの教育相談との関連を図るなど、次の事項に留意する。

ア 視覚障害者である幼児に対する教育を行う特別支援学校

幼児が聴覚、触覚及び保有する視覚などを十分に活用して周囲の状況を把握できるように配慮することで、安心して活発な活動が展開できるようにする。また、身の回りの具体的な事物・事象及び動作と言葉を結び付けて基礎的な概念の形成を図るようにする。

イ 聴覚障害者である幼児に対する教育を行う特別支援学校

幼児が保有する聴覚や視覚的な情報などを十分に活用して言葉の習得と概念の形成を図る指導を進める。また、言葉を用いて人と関わりを深めたり、日常生活に必要な知識を広げたりする態度や習慣を育てる。

ウ 日本語の習得に困難のある幼児への配慮

海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児については、安心して自己を発揮できるよう配慮するなど個々の幼児の実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

第4節 埼玉県における特別支援学校幼稚部で育みたい力

自分らしさを発揮し、友達と共に よりよく生きていく力の育成に向けて

育みたい資質・能力

知識・技能の基礎

思考力・判断力・表現力の基礎

学びに向かう力、人間性等

幼稚園教育の5領域

健康 人間関係 環境 言葉 表現

自立活動の6区分

健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成  
環境の把握 身体の動き コミュニケーション

視覚障害特別支援学校

※埴保己一学園

触る手（触察・手指の操作）  
聞く耳（思考・空間認知）  
体づくり  
（基本の動き・ボディイメージ・歩行）  
弱視の幼児視覚活用（視覚補助具の活

聴覚障害特別支援学校

※大宮ろう学園、坂戸ろう学園

視る力（視覚活用）  
聞く耳（聴覚活用、聞こえの管理）  
言葉の力（手話、日本語、言語概念）  
確かなコミュニケーション  
（意欲、態度、能力）

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え  
社会生活とのつながり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重  
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

## 第5節 視覚障害特別支援学校で大切にしたい支援

- 1 視覚に障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援
- 2 保護者に寄り添う温かい支援

### 1 視覚障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援

#### (1) 安心・安全な環境（人的・物的）で意欲を育む支援

視覚障害のある幼児は、見えないことから不安になりやすいため、安心した気持ちを持てるよう手をつないだり、温かい声をかけたりするなど、幼児の僅かな心の動きに応答するように心掛けています。安心した気持ちは、幼児の主体的な活動を促す基盤となるので、視覚障害のある幼児にとって教師の信頼に基づく関係は大変重要である。

手指や足裏の感覚から周囲にある情報を得るなど、視覚を補えるような環境を整える配慮を行っている。自分から移動しようとする意欲を大切にし、物の配置を固定したり、廊下には障害物を置かず、歩行の手がかりとなる手すりを取り付けたり、カーペットなど、足裏の僅かな感覚から自分のいる位置を把握できたりするような工夫を行っている。

#### (2) 自分でできる基本的な生活習慣の育成

衣服を選ぶ際には自分で練習しやすいように、着脱が簡単で少しゆとりのあるものを保護者をお願いしている。衣服を着る際の持ち手の場所が分かるように、服の後ろの裾やズボンの前の両端に飾りぼたん等で目印をつける工夫をする。着る動作一つ一つに温かい言葉かけを添えて励まし、大人の支援を徐々に減らして一人で着脱ができるようにしている。

食事においては、お盆の上の食器の位置を固定し、食べ物の配置が分かるようにしている。器の壁面が垂直など、スプーンですくいやすい食器や、白いご飯を見やすい黒い茶碗など、幼児に合った適切な食器を使うことにより、自分で食べる気持ちを育てている。

#### (3) 五感でつかむ、確かな思考形成：核となる体験

身の回りで起きている事象を把握するために、五感を十分に活用できるように促している。触覚と聴覚を活用することは大変有効である。触ることが楽しく、触ったら心地よかったという経験を多く積み、触る手を幼児期に育てている。実物に触れる機会を作り、触り方を教える。確かな概念を形成するには核となる体験活動を重視し、触るものを厳選する。例えば花の概念を育てるにはチューリップやユリ等、分かりやすいものを選び、手で順番に土から茎、葉、花弁までたどるよう支援する。

聴覚を活用することは、外界への興味・関心を広げる窓口になる。対象物に向かって手を伸ばすリーチングが出現しにくい視覚障害のある幼児にとって、聴覚活用は重要である。そこで、音の出る玩具などを用いて遊びに誘うようにしている。楽しい遊びであることが分かると、音のする方に向かって（音源を定位して）移動する意欲を育てることができる。聴覚は、空間の広がりや把握することにも役立つ。そして、聞こえる音情報を整理して伝え（水の音、足音、鳥の鳴き声等）、言葉の概念を育てる。その際、バーバリズム（視覚障害者が、耳で聞いた情報だけでものごとを理解できたと思ってしまうこと）にならないように、実体験を伴うようにすることが大切である。実物での体験が難しいときには、模型を準備するようにしている。

また、幼児が聞くことに集中しているときには、大人がその状況を妨げないように見守ることも必要である。大人の余計な声かけや過剰な励ましなどが、幼児の集中を途切れさせることがないように静かな環境を作る。情報が必要なおときには的確な言葉で説明し、集中して感覚を活用しているときには余計な刺激を与えないという配慮が大切である。

#### (4) 動くことが楽しい基本的な体づくり

運動の基本となる動作は、歩く・走る・投げる・跳ぶことである。視覚に障害があると見よう見まねができないため、運動に制限を受けている。手とり足とりで丁寧に体の動かし方を教えることが必要になる。時には遊具などを用いて実際に楽しみながら体を動かす活動を行い、汗を流す心地よさを味わい、健康な体を作る。実際に体を動かしながら、細かい身体の部位やボディイメージを育てていくことが大切である。

また、手と指は第二の脳とも言われ、視覚障害のある幼児にとっては、外界を知るための窓口となる。見えないため、物の存在が分からず、物に手を伸ばす行為が難しい。幼児のすぐ近くに興味を持たせるような音の出る玩具を置くなど、環境に配慮している。手でにぎる、動かす、触る、探す活動を支援し、基本的な手指の機能を高めていく。

#### (5) 見えない、見えにくくても学べる環境

全盲の幼児を指導する時には、周囲にある物の配置を固定する工夫をしている。物の位置が自分の位置を知る目印（ランドマーク）となっている。ランドマークを手がかりにして一人で移動ができるよう支援をしている。

物を提示する時には、枠組みのある箱や、トレーを用意し、物を手探りで触れるように工夫している。物を触る時には、全体像がつかめるようにまずは全体を大きくたどり、次に細かい部位を探るように触るよう支援をしている。

弱視の幼児が残存視力を十分に活用できるための工夫として、部屋の明るさを幼児に応じて適切に調整したり、書見台で絵や写真、本を見やすい角度にしたりしている。本などについては、コントラストや色使いが明瞭であり、原色など、色合いの区別が分かりやすいものを選んでいく。

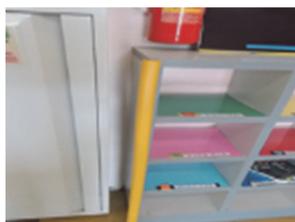
また、視覚補助具として、拡大読書器や、ルーペ、近用・遠用レンズ、単眼鏡、iPadの拡大アプリ、時刻を知る用具として、音声時計や黒盤に白色数字の時計を用いている。外での活動において太陽光の眩しさを感じる場合には遮光眼鏡を装着し、つば広の帽子を被るよう支援をしている。

#### (6) 共に生きる喜びを味わえる仲間づくり

視覚障害特別支援学校には、全盲だけでなく弱視など、視覚障害に係る様々な障害の幼児が通う。見えにくさを補う配慮された環境の中で共に楽しく関わりあえる友達の存在は貴重である。幼児自身が感性や思考を働かせながら、時には自分のペースに合わせてしっかりと活動に取り組み、自分らしく伸び伸びと自己実現を図れる場となるように環境を整えている。幼児同士や、教師との関わりの中で温かい人間関係を築き、興味関心を広げ、主体的に学ぼうとする基礎的な力を育てている。励まし合い、気持ちが響き合える仲間がいる集団を味わえるようにしていく。

## 2 視覚障害のある幼児への支援や配慮の工夫例

### (1) 安全



廊下には、障害物は置かず、角のある物にはクッション緩衝材を取り付けるなど、安全に配慮している。弱視の幼児のために洗面台や段差には縞模様で注意を喚起している。

### (2) 自分でできる環境（ロッカー、靴箱、机、椅子）



色画用紙や、色テープ、触って分かるマークなどを貼り、自分や友達のロッカー、靴箱などが分かるようにしている。幼児ごとのマークを用意し、自分の物の位置が分かるようにしている。

(3) 自分でできる環境 (場所の固定)



全盲の幼児には、自分のロッカーの位置が分かるようにカーペットを敷いている。教材の棚は、常に同じ物を入れるようにし、自分で選んだり、片づけたりできるようにしている。石鹸の位置も固定している。教室内の机の位置も同じ位置になるように、テープで印をつけている。座席やロッカーの位置は、幼児の導線を考えている。例えば、ある全盲児は、ロッカーに背をつけて移動すると自分の机に行くことができるようにしている。

(4) 自分でできる環境 (食事)



自分で食べる練習用の食器である。持ち手に向かってスプーンを動かし、そのまま上に動かすとすくって食べることができる。弱視用の茶碗は中が黒く、ごはんの残りが見えやすくなっている。給食のお盆の上で食器を置く位置を決め、常に同じように配膳をする。

(5) 自分でできる環境 (衣服)



保護者に依頼をして上着は背中、ズボンはお腹の持つ位置にボタンをつけてもらっている。弱視の幼児はコントラストのある色が見やすい。日々、練習をして自分で着替えができるようにしていく。

(6) 実物に触れる



実物に触れることを大切にしており、玄関には季節の花や木の実、野菜や果物などを置いている。食育では、実物大のカジキマグロの絵を使った。畑の学習では、種まき(苗植え)から収穫までを体験する。収穫したさつまいもは、集めた落ち葉で焼き芋会を行ったり、芋を色々な形に切ってスタンプ遊びをしたりした。

(7) 玩具



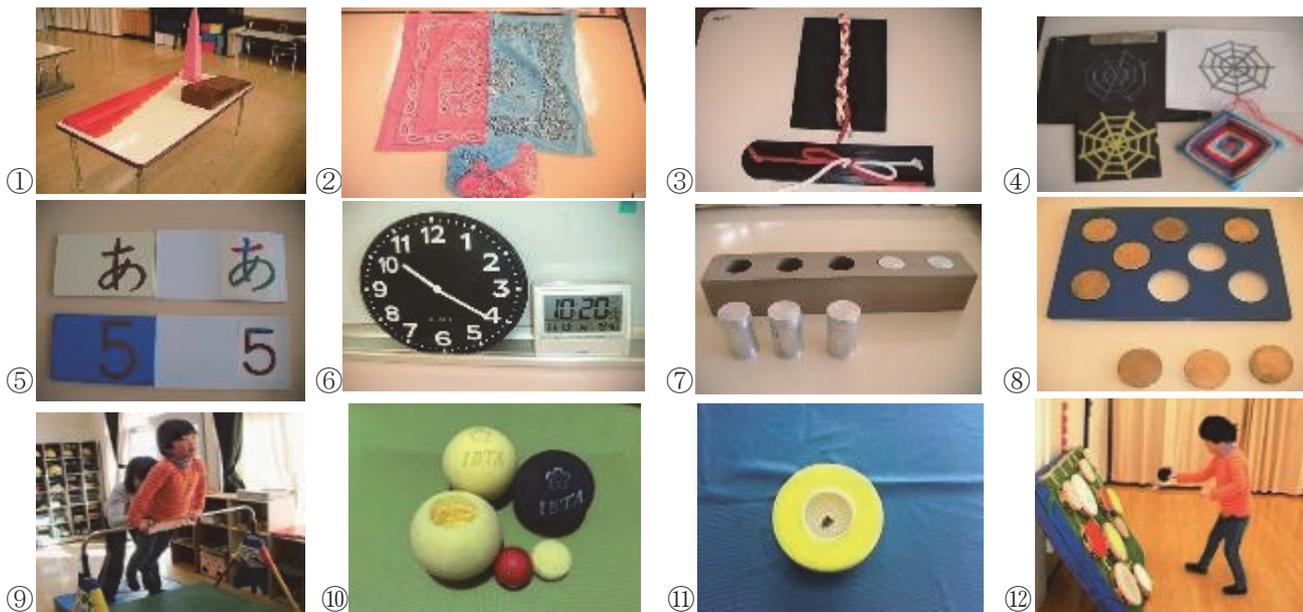
年齢の小さい子供たちは、光、音、振動の出るおもちゃで遊ぶ。①「ボール落とし」は、転がり落ちていく軌道とチャイムの音を楽しむ。②「カラコロツリー」や、③「シロフォン付き玉の塔」は、親指と人差し指・中指を輪にして玉をつまみ、穴に入れたり、玉を目で追ったり、音やリズムを楽しんだりする。④は、きれいな音が出るさまざまな楽器を使って音楽会を行っている。

(8) 視覚補助具



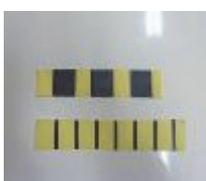
弱視の幼児には、補助具を積極的に使っている。①拡大読書器は、拡大の他に色やコントラストを変えることができる。②単眼鏡は、遠くのを拡大してはっきり見る時に使う。③タブレット端末は、昆虫や花などを撮影し、拡大して見る時や、行事の見学に使う。④書見台は、正しい姿勢で読んだり書いたりする時に使う。

(9) 教材・教具



①「モンテッソーリ教具」(長さの棒、茶色い階段、ピンクタワー)は、感覚を洗練させ数や量を学ぶことができる。②③は弱視の幼児のために、色のコントラストや、明るさに配慮した教材である。④製作の時間に作った「くもの巣」は、レーザーライターという浮き出る紙や、立体コピー、切り絵などを使って、形をイメージした。⑤砂文字は、触覚も使ってひらがなや数字を覚える。色で筆順を示している。⑥文字板が見やすい時計と音声時計を並べ、時刻が分かりやすいようにしている。⑦⑧落としたり、はめたりする教材は、手指を動かしながら学ぶ。⑨屋内に鉄棒を置き、運動を日常的に楽しむ環境をつくる。自分の身体を支えたり、逆さの感覚を感じたりすることができる。⑩ブラインドテニスのボール。⑪スポンジ製で中に音源があり、安全にボール遊びを楽しめる。⑫マットにタンブリンをぶらさげて的を作り、当たったときの音を楽しみながらボール投げの練習をしている。タンブリンに色をつけ、弱視の幼児が見やすいように工夫している。

(10) 教材・教具 (はさみの使い方：弱視の幼児への段階的指導)



はさみの初期指導には、大人と一緒にハサミを開いたり、閉じたりできる補助バサミを使う。ばねバサミは、ばねで開くため、一人でも扱いやすい。線に沿って切る練習では、左の写真のように切る線を見やすくする工夫をしている。目の近くで、はさみを使う時には、安全のための保護メガネを使う時がある。

### 3 視覚障害特別支援学校幼稚部の日課表例

時間	月	火	水	木	金
9:15			登校		
9:30	準備・健康観察・着替え・トイレ のびのびタイム・朝の会 (課題別指導・リズム体操・自由遊びなど)				
10:50	お集まり (出席確認・歌等)				
11:00	設定遊び (散歩、感触・製作遊び、運動遊び、 音楽遊び、課題別等)				
11:40	自由遊び・トイレ				
12:00	給食準備・給食・歯磨き・片付け				
13:00	自由遊び・トイレ・着替え				
13:30	帰りの会				
13:45	下校				
14:30	個別相談 (13:45～14:30)				

#### 【日課表設定の理由】

- 一日の生活の流れが見通せるよう日課としている。
- 日常生活に必要な力である「準備・着替え・トイレ」「給食」「片付け」を日課に取り入れている。
- 「のびのびタイム」は、遠方からの通学の配慮や様々な障害のある幼児への対応を考慮している。身体づくりなどのリズム運動や、幼児の学びに応じた課題別学習など、幼児が自らののびのびと活動できる時間としている。
- 「自由遊び」は、幼児の興味・関心の広がりや仲間とのかかわり合いを大切にしている。
- 障害が理由で体の動きを制限されることが多い。「身体づくり」や「運動遊び」、「散歩」では、様々な身体の動きができるよう、「感触・製作遊び」や「音楽遊び」では、情操、表現する力を育てるよう工夫している。
- 「帰りの会」では一日の生活の楽しい振り返りを行い、明日の活動に期待が持てるようにしている。
- 放課後には、保護者との連携を図るために「個別相談」を行っている。

### 4 視覚障害のある幼児の保護者支援の実際

我が子に障害があると分かった時には、保護者は将来に大きな不安と悩みを抱く。こうした時に、保護者が我が子の障害をどのように受容するかが、その後の望ましい成長・発達に大きな影響を与えることが多い。前向きな気持ちで育てていくための保護者支援を行うことが大切である。

#### (1) 話を聞く（傾聴）

保護者は様々な悩みや不安を抱えている。保護者が安心して自分の気持ちを話しても大丈夫なんだと感じ取れることが大切である。接し方や声のかけ方など、細かな点にも配慮が必要である。幼児がこれまで育ってきた様子や、病院でのできごと、そのときに感じた保護者の様々な思いなど、涙の出る話も多い。保護者をしっかりと受け止め、話に耳を傾けることが何より大切である。

保護者は子育ての経験が少ない上に、幼児に障害があればどうやって育てて良いか分からず、不安になることが多い。母親は自分が生んだことで、周りの視線や心ない言葉に傷ついている場合もある。保護者の心に配慮し、ともに幼児を育てていくという姿勢が必要である。

#### (2) 見え方のシミュレーション

幼児の実際の視力や見え方などが大よそ分かる場合は、シミュレーションを行ってもらおう。保護者に幼児の見えにくさからくる制限を理解してもらおうことは大切である。幼児の場合、少しでも見えていると、周りの大人からは日常生活では、不自由なく動いているように見られてしまう。小学校のように文字や細かなものをよく見るといった場面が少ない上、幼児自身も生まれてからくっきりともものを見たことがないために、自分が見えにくいのだということに気付かずに過ごしている。

実際にシミュレーションを行うことで、どんな場合が見えにくいのか、どれだけ子供が努力しているのかを理解してもらおう助けになる。生活の中で不便がないように過ごしていても、実はとても苦勞しているの、見えやすくするための工夫や環境について保護者自身に理解してもらおうことで、幼児は安心して過ごせるようになる。

#### (3) 同年齢や、先輩保護者の活動を見る機会

保護者にとっては現在の生活そのものも不安であるが、将来についてもどうなっていくのか不安を抱えている。少し先の見通しがもてることは、安心して過ごしたり、子供に向かう気持ちを育てたりする面でも違いがある。先輩の活動を見ることは大きな励みとなっている。

(4) 同じ障害のある子をもつ親との交流の場

同じ障害のある子をもつ親同士が交流を図ることは大切である。どんな点に気をつけて育てているか、共通の思いを感じたり、情報交換をしたりすることで、我が子に対する関わり方が違ってくる。

(5) 保護者学習会の例（平成29年度）

	期日	内容
1回	4月10日（月）	保護者の顔合わせ、一年間の予定
2回	6月1日（木）	校長との懇談会
3回	6月15日（木）	幼稚部主事との話し合い（保護者学習会の今後の予定等）
4回	7月11日（火）	白杖について（講義・実技）
5回	9月19日（火）	本校普通科教師（全盲の当事者）の体験談
6回	10月17日（火）	小学部の保護者との話し合い（体験談）
7回	11月15日（水）	ブラインドテニスの体験
8回	1月25日（木）	弱視体験（講義・体験）

【全盲体験の様子】



5 早期教育相談

(1) 教育相談の取組状況

見ることは、笑顔を向け合う人との関係づくり、何だろうという興味関心、やってみようという意欲、行きたいという移動・運動の力、集中してものの変化を楽しむなど、様々な発達を促すものである。適切な視覚への配慮は、視力の発達にとどまらず、幼児全体の発達に影響を及ぼしている。そうしたことから、乳幼児支援と子育てに関わる保護者支援が必要であり、教育相談は幼稚部入学前の早期から、特に視力発達が急速な超早期である0歳児からの相談が重要である。

本校では、0～2歳児の乳幼児も定期的に教育相談児として通うことができる。3歳児以上であっても家庭の事情などで本校に籍を置かずに必要に応じて教育相談を受けることができる。

今年度の実施状況は下記のとおりである。なお、相談については、基本的に県内全域の方を対象としているが、参考までに相談に来た方の居住地を載せた。（平成29年12月25日現在）

【定期的来校相談回数】

	回数	延べ人数	相談者の居住地
5歳児	月1回	1名	鴻巣市
2歳児	週2回	100名	日高市
1歳児	月3回	16名	行田市
0歳児	月1回	1名	さいたま市

【不定期来校相談回数】

	延べ人数	相談者の居住地
5歳児	5名	鴻巣市
4歳児	1名	行田市
1歳児	3名	さいたま市
0歳児	2名	県外

【本校以外の会場での相談回数】

	回数	延べ人数	相談者の居住地
小児医療センター	月1回	2名	さいたま市・川口市
川口保健センター	月1回	1名	川口市
鴻巣女子高等学校	月1回	6名	鴻巣市・行田市
さいたま市下落合教育相談室	年1回	3名	吉川市・さいたま市
幼稚園・特別支援学校	随時	2名	行田市・さいたま市
福祉施設・保健センター	随時	10名	行田市・日高市・川越市・鶴ヶ島市・鴻巣市・東松山市

保護者に限らず、保育関係者、病院、施設関係者からの相談も受け付けております。見え方や子育てに関する相談は、下記までお気軽にご連絡ください。

特別支援学校鴻保己一学園幼稚部 教育相談

電話 049(231)2121 Fax 049(239)1015

Mail [soudan@mo-sb.spec.ed.jp](mailto:soudan@mo-sb.spec.ed.jp) URL <http://www.mo-sb.spec.ed.jp/>



(2) 視覚障害特別支援学校の日案例  
重複学級（5歳児） 日案

担任 ○○ ○○

○月○日（○曜日）				
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロッコリーの苗植えの体験を通して苗の葉の形や大きさに気付き、苗の植え方を知る。（知識・技能の基礎）</li> <li>・目と手の協応を図る活動を通して、試行錯誤して取り組む。（思考力・判断力・表現力の基礎）</li> <li>・友達と一緒に遊ぶことで心地よさを味わう。（学びに向かう力・人間性等）</li> </ul>		<p>評価</p> <p>ブロッコリーの苗植えの説明を聞いて、手順や植え方を知り、見通しを持って自分から取り組もうとする姿が見られた。友達と一緒に活動を楽しめたことも大きな成長である。弱視なのでじっくり見ることや試行錯誤の時間を長めにとるよう時間設定に配慮が必要である。</p>	
	物的環境の構成	<p>①自由遊び</p> <p>室内（言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器（打楽器や弦楽器、キーボード等）</li> <li>・ブロック、ままごと</li> <li>・つみき</li> <li>・絵本</li> </ul> <p>屋外（健康な心と体、協同性）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具、アスレチック</li> <li>・砂場</li> <li>・築山、トンネル</li> <li>・校庭、庭木、草花</li> </ul>		<p>②個別課題</p> <p>（数量・図形、文字等への関心・感覚）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：円柱さし</li> <li>2：茶色の階段</li> <li>3：ひも結び</li> <li>4：型落とし（プットイン課題）</li> </ol> <p>課題設置の机の位置</p>
時間	幼児の活動	教師の指導と支援	配慮事項	指導の関連性
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登校する。挨拶をする。</li> <li>●自分のロッカーを探す。</li> <li>●リュックの中の所持品をロッカーに出す。</li> <li>●着替えをする。シャツの後ろ、ズボンの前に付いている印のところに付けて着る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●排泄、手洗いをする。</li> <li>●自由遊びをする。</li> <li>●片付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆元気に挨拶を交わす。近くにいる友達の存在を知らせ、挨拶を促す。</li> <li>◆所定の場所に所持品を置くように声をかける。</li> <li>◆着替えられるところは一人でを行い、できない部分を一緒に手を添えて援助する。カゴに脱いだ服を入れるように声をかける。</li> <li>◆トイレで必要な支援をする。</li> <li>◆選んだ物と一緒に楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者に主な活動を伝える。</li> <li>○自分のロッカーを一緒に探し、所持品を置くよう声をかける。</li> <li>○連絡帳に目を通し、内容を把握しておく。</li> <li>○着替えの際に、持ち手の印（ボタン等）を頼りに、前後を間違えないように見守る。カゴを活用し、脱いだ服（カゴに入れる）、着る服（カゴの左外側に置く）を明確にさせる。</li> <li>○トイレまでの移動の安全に目を配る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自立活動6区分</li> <li>■幼稚園教育要領5領域</li> <li>◎幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿</li> <li>★健康の保持</li> <li>★心理的な安定</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■健康</li> <li>◎健康な心と体</li> <li>◎自立心</li> </ul>
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝の会をする。（クラスルーム）</li> <li>・挨拶・歌・お名前呼び</li> <li>・日付と本日の予定</li> <li>・ブロッコリーの苗を観察と触察</li> <li>・当番の話</li> <li>・今月の歌</li> <li>●水分補給をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆朝の会の進行に耳を傾けるように声をかける。ブロッコリーの苗の葉の形や大きさなど、手で触った感覚を言葉にする。植え方の説明を聞くように促す。畑で苗植えをすることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の会で、一日の生活の見通しが持てるようにする。苗の下に新聞紙を敷く。安心して触れる環境を作る。触り方を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★心理的な安定</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>★環境の把握</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■人間関係</li> <li>■環境</li> <li>◎自然との関わり</li> <li>◎思考力の芽生え</li> </ul>
10:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帽子をかぶり、外へ移動する。</li> <li>●ブロッコリーの苗植えをする。</li> <li>●外遊びをする。</li> <li>●手洗いや、水分補給、排泄をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆畑に安全に誘導し、立札を探すよう働きかける。シャベルの使い方、苗の植え方、水のやり方を教える。道具を片づけさせ、手洗いを補助する。</li> <li>◆遊びたい遊具へ安全に誘導する。十分身体を動かすよう働きかけ、苦手な運動に挑戦できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○靴箱を探し、外靴への履き替えを促す。</li> <li>○畑には名前の色別になっている札を立てておく。教師と一緒にやって道具の使い方に慣れる。</li> <li>○身体の動かし方を覚えられるように、声をかけたり、手を添えたりして一緒に動く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>★心理的な安定</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>■健康</li> <li>■環境</li> <li>◎健康な心と体</li> <li>◎自然との関わり</li> </ul>
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題別学習をする。（プレイルーム）</li> <li>1 円柱さしに取り組む。</li> <li>2 茶色の階段に取り組む。</li> <li>3 ひも結びとひもほどこきをする。</li> <li>4 型落としをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆やり方を教え、一人で取り組めるようにする。課題を終えたら、次のテーブルに進むように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を一つのテーブルに一つ提示して、見通しを持ちやすくする。戸惑っている場合は、手を添えて一緒に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★心理的な安定</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>■環境</li> <li>◎思考力の芽生え</li> <li>◎数量や図形、文字などへの関心・感覚</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自由遊びをする。</li> <li>●片付ける。</li> <li>●排泄や、手洗いをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆やりたそうな遊びや昨日の続きの遊びを思い出し、好きな遊びを選べるよう支援する。友達の遊びに関心が持てるように誘う。一緒に楽しみ、遊びを広げる。</li> <li>◆給食であることを伝え、遊んだ物を一緒に片付ける。</li> <li>◆丁寧に石けんで手洗いをするよう声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達との関わりが持てるように、周りの友達の様子を知らせる。近くの友達の様子と一緒に遊べそうな友達を誘うよう支援する。</li> <li>○ポンプ石けんの置き場は固定しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>★心理的な安定</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■人間関係</li> <li>◎道徳性・規範意識の芽生え</li> <li>◎社会生活との関わり</li> <li>◎豊かな感性と表現</li> </ul>
12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給食の準備をする。</li> <li>●給食を食べる。</li> <li>●食器等を片付ける。</li> <li>●歯磨きをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆食事に必要なものをテーブルに置く。</li> <li>◆スプーンやフォークの持ち方、すくい方を支援する。手や口元が汚れたら、おしぼりで拭くように声をかける。</li> <li>◆自分のものを片付けるよう、声をかける。</li> <li>◆仕上げ磨きをする。</li> <li>◆口をすすぐことを教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○給食のおかずの食材の大きさを確認し、噛みにくいもの（繊維質等）は刻みバサミで切る。安全に食事ができるようにする。</li> <li>○苦手な物でも、ひと口でも食べられたら、一緒に喜ぶ。</li> <li>○自分から食べてみようと思えるような雰囲気をつくる。</li> <li>○口のすすぎ方は、やって見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■健康</li> <li>■人間関係</li> <li>◎自立心</li> </ul>
13:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●着替える。</li> <li>●ロッカーの荷物をリュックにしまう。</li> <li>●自由遊びをする。</li> <li>●排泄、手洗いをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆服の持ち手の印に気付かせて着替えるよう支援する。</li> <li>◆ロッカーの荷物をリュックに入れるよう声をかける。</li> <li>◆好きな遊びを一緒に楽しむ。</li> <li>◆トイレに必要な支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リュックに入れやすい物の順番で声をかける。</li> <li>○今日の活動の終わりを知らせ、遊びを片付けるよう支援する。</li> <li>○トイレに安全に移動できるように見守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>★心理的な安定</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■健康</li> <li>◎自立心</li> </ul>
13:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帰りの会をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の振り返り</li> <li>・楽しかったことの発表</li> <li>・翌日の予定</li> <li>・今月の歌や帰りの歌、挨拶</li> </ul> </li> <li>●リュックを背負い、昇降口へ移動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆一日を振り返られるように、出来事をいくつか伝える。楽しそうだったことを一緒に発表する。楽しい気分で歌う。</li> <li>◆リュックを背負う支援をする。安全に誘導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一日の振り返りでは、本児が笑顔で取り組んでいたことが想起できるようにする。</li> <li>○明日の予定を伝えて、期待を持てるようにする。</li> <li>○安全に移動できるよう見守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★心理的な安定</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■言葉</li> <li>■表現</li> <li>◎言葉による伝えあい</li> </ul>
13:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>●迎えに来た母親に、「ただいま」の挨拶をする。1日の報告を一緒に聞く。別れの挨拶をして車に乗り、下校する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆母親に、良かったことなどを本児の前で報告する。明日の予定等を伝え、別れの挨拶を交わす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母親に特に報告したい出来事を伝え、成長を共に喜び合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★心理的な安定</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■人間関係</li> </ul>

### (3) 視覚障害特別支援学校の指導事例

#### 視覚障害特別支援学校幼稚部 設定遊び（感触・製作遊び）指導案

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:40 ○〇教室

#### 2 活動設定の理由

野外体験学習で高麗川に行き、川原で石を拾って来た。自分で集めた材料で工作をする経験が必要だと考え、川遊びと感触・製作を関連づけた。触ることに抵抗のある幼児でも、石は硬く、形がはっきりしているため、取り組みやすいと考えた。また、自然の素材と触れ合うことで、自然に対する興味・関心を広げるきっかけになることも期待できると考え、本活動を設定した。

※本活動で前提とする幼稚園教育要領5領域の内容に関連する事項

【環境】(1) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

【表現】(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

(7) 書いたり、作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

#### 3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が拾った石をよく触り、形、大きさ、重さ、手触り、色などの違いに気付く。(知識・技能の基礎)</li> <li>石を並べたり重ねたりして、自分の力で様々な形を構成する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>作りたいものをイメージしながら、意欲的に手を動かす。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標A(5歳児一般学級・全盲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>石を触って感触(大きさ・重さ・硬さ)を感じる。(知識・技能の基礎)</li> <li>自分で触って動かし、自由に並べたり重ねたりする。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標B(5歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>石の形から作りたいものをイメージし、自分なりの作品を製作する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>製作したいものに何が必要かを考え、意欲的に取り組む。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標C(5歳児重複学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>石を一つずつ見て触って、色や形、大きさに気付く。(知識・技能の基礎)</li> <li>教師と一緒に並べたり重ねたり話をしたりしてイメージが浮かんできたものを作る。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標D(4歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に石を動かしながら作るものを考える。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>できるだけ教師の支援を受けずに作品を製作する。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標E(4歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の石の形から作りたいものを考える。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>石を動かして形を様々な形を作ることに集中する。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標F(3歳児一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>石をよく触り、石の感触(大きさ・重さ)を感じる。(知識・技能の基礎)</li> <li>石を自由に並べたり重ねたりする。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>

#### 4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当番がはじめの挨拶をする。 「これから製作をします。」</li> <li>○始まりの歌を歌う。 右手はグーで左手もグーで「石並べ」 右手はグーで左手もグーで「石重ね」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机の上に何も置かないようにする。</li> <li>○グーの形ができているかを確認しながら、ゆっくり歌う。</li> <li>○「並べる」と「重ねる」の違いがよく分かるように両手の場所を教える。</li> </ul>	
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○川で拾って来た石で製作することを知らる。</li> <li>○板と自分が拾って来た石を受け取り、板の上で石を並べたり、重ねたりして、違う形ができることを知る。</li> <li>○何を作るかを決める。</li> <li>○色を塗っても良いことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高麗川で石を拾って来たことを思い出すよう支援する。</li> <li>○並べた石と重ねた石の見本を見たり、触ったりする。</li> <li>○全盲の幼児には、拾って来た石を一つずつ丁寧に触るよう支援する。</li> <li>※自立活動の内容に関連する事項 (4) 環境の把握 ア 保有する感覚活用に関すること。</li> <li>○一人で決められない場合には、教師と相談したり、教師が支援をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>並べた石と重ねた石の見本</li> <li>板(B4程度)・石</li> <li>絵の具</li> <li>筆・皿</li> <li>新聞紙</li> </ul>

15分	○各自で製作する。	○色塗りと構成のどちらを先にやるかの手順を確認する。 ○石を落したり、投げたりすると危ないので、幼児から目を離さないように注意する。	
10分	○友達作品を見る。  ○次週に続きをやることを知る。 ○当番が終わりの挨拶をする。 「これで製作を終わりにします。」	○作ったものを壊さないように丁寧に触る。 ○良くできている点を見つけてほめる。 ○片づけを手伝える幼児には、仕事を任せる。	

## 5 評価

### (1) 本時の評価

全体の評価	自分が拾った石を使うことにより、製作意欲を引き出すことができた。全盲や見えづらい幼児は、作りたい物のイメージを持つことは難しいため、導入の際に工夫が必要である。
個人評価A	石の感触や重さから感じとったことを言葉にして表現できた。石で作りたい物を自分で考え、教師と一緒に並べることができた。
個人評価B	石の形から作りたいものをイメージし、石をつなげて作品を作り上げる事ができた。また色合いも考え、集中して取り組む事ができた。
個人評価C	石を次々並べたり、積み上げたりする中で、山のイメージが持て、絵の具に興味を持って、色付けまで集中して楽しめた。
個人評価D	石をいろいろと動かしてみたが、作りたいものが思いつかず、石の色塗りから始めた。友達作品をよく見て、良い点を見つけていた。
個人評価E	「花」というイメージをすぐに思いつき、石に色を塗ることに集中して取り組むことができた。作ることに喜びを感じ、言葉でも表現していた。
個人評価F	最初は自分から触ろうとしなかったが、1つ渡して持たせると石を握ってみたり他の大きな石を自分から触ってみたりしていた。並べると意識しなかったが、教師が石を重ねて見せると、いくつか重ねていた。

### (2) 次の授業の改善点

全体の改善点	幼児が作品へのイメージを広げ、楽しく表現活動ができるよう支援する。
個人の改善点A	絵の具以外に凹凸のあるシールを石に貼るなど、手で触って楽しめるよう工夫する。
個人の改善点B	平面としての作品だけでなく、石を重ねて作る立体も考えられるよう声かけをする。
個人の改善点C	山のイメージを次回の導入時に想起させ、色塗りを楽しみつつ、仕上がる喜びが味わえるよう工夫する。
個人の改善点D	色塗りした石から作りたいものを考え出せるようじっくりと考える時間を与えるようにする。
個人の改善点E	作業が途中で乱雑になることがあるため、仕上げまで集中して取り組めるように声かけをする。
個人の改善点F	「並べると〇〇みたいだね」と石の形や並べることに関心を持てるよう声かけをする。



※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

(7) 自然との関わり・生命尊重 川に入って自分で拾った石を素材としている。

(10) 豊かな感性と表現 石を並べたり重ねたりして表現することを喜ぶ。

視覚障害特別支援学校幼稚部 設定遊び（運動遊び）指導案

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:40 体育館

2 活動設定の理由

マット運動は、多くの動きを取り入れられるため、様々な動きに挑戦し、技ができた時の楽しさや喜びを味わえる活動である。日常生活では、経験しづらい「逆さになる・転がる・手で体を支えて回転する」などの動きを取り入れることにより、首や股関節などの可動域を広め、体を支える力や柔軟性・巧緻性、調整力などの力を養えると考え、本活動を設定した。

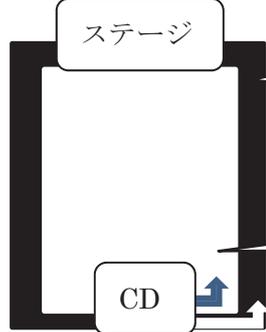
※本活動で前提とする幼稚園教育要領5領域の内容に関連する事項

- 【健康】(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。  
(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の動かし方を知り、様々な姿勢や動きを身につける。(知識・技能の基礎)</li> <li>・体を動かす楽しさや心地よさを感じる。(学びに向かう力・人間性等)</li> <li>・振り返りで発表する内容を教師と考え、発表する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標A (5歳児 一般学級・全盲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師に手足の動きを声かけしてもらいながら、一つ一つの動きを理解する。(知識・技能の基礎)</li> <li>・何が楽しかったか、上手にできたかを考えて発表する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標B (5歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マットの足裏感覚に慣れて安心して運動ができる。(学びに向かう力、人間性等)</li> <li>・体の動かし方は教師の見本の時に特に丁寧に触ってイメージする。(知識・技能の基礎)</li> </ul>
個人目標C (5歳児 重複学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な動きにも積極的に取り組む。(学びに向かう力・人間性等)</li> <li>・体の動かし方を知り、イメージした通りに動かす事ができる。(知識・技能の基礎)</li> </ul>
個人目標D (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の動きをよく見て、正しく体を動かす。(知識・技能の基礎)</li> <li>・できたところ、むずかしかったところを発表する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標E (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい動きを覚え、あわてずに体を動かす。(知識・技能の基礎)</li> <li>・順番を守り、みんなで楽しく活動する。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標F (3歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の支援を受けながら、自らで動かせるところは、自分で動かす。(知識・技能の基礎)</li> <li>・床とマットの違いに気付き、感触を楽しむ。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	○全員がマットの上に一列に座る。 当番がはじめのあいさつをする。	○集合場所のマットに、誘導する際は太鼓や拍手などの音で場所を伝え、見通しを持てるよう場所、内などを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太鼓</li> <li>・マット</li> </ul>
5分	○リズム運動をする ①ジャンプ②タオル回し ③横曲げの運動 ④前後の運動 ⑤アキレス腱伸ばし ⑥全身を回す	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リズム運動の曲を知らせ、弱視の幼児に向けて教師が幼児の前で一緒に踊る。模倣が難しい幼児には、各担当教師と一緒に体を動かして動きを覚えられるよう支援する。</li> <li>○リズム運動で使うタオルひもは、三つ編みのものを用意し、触って握りやすいようにする。また、タオルより重さが増し、振った手ごたえを感じやすく支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タオルひも</li> </ul>
5分	○マラソンをする。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師と手を繋いで走ったり、声の誘導のみで走ったり、それぞれの運動能力や見え方に合わせた支援をする。</li> <li>・体育館の外周は色が黒く、材質が違って、弱視の幼児は色の違いや足裏からの感覚を目印に</li> <li>・毎回同じ曲を使っており、更に定位置に置くことで幼児自身の位置をイメージできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDプレーヤー</li> <li>・音源CD</li> </ul>

15分	○マット遊びをする。 ・ゆりかご ・馬歩き ・アヒル歩き ・丸太転がり ・前まわり	○マットに触ったり、歩いたり、跳ねたりして、床との感触の違いを伝える。教師が見本となった姿勢を、手で迎えるように触り、体の姿勢や動きがイメージできるよう支援する。 ○言葉でも動きを丁寧に説明し、動きが難しい幼児には支援を行う。 <u>※自立活動の内容に関連する事項</u> (1) 身体の動き ア 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 イ 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	・マット (人数分)
5分	○活動を振り返る。 「上手くできたこと」「次回頑張りたいこと」などを考えて発表する。	○「○○ができました。」「○○が楽しかったです。」など、表現できるよう支援する。 ○幼児が発表した以外のことで、上手にできたことなどを細く説明する。	
5分	○マットを片付ける。 ○当番がおわりのあいさつをする。	○周囲の安全を確認して、一緒にマットを運ぶ。	

## 5 評価

### (1) 本時の評価

全体の評価	マットの上でいろいろな動きに挑戦することができた。幼児にとって初めての動きにも教師からの支援を受け、体の動かし方を知ることができた。一人一つのマットを使用する事で幼児のペースで練習を進めることができた。
個人評価A	馬歩きや丸太転がりなどの動きは、教師の声かけから動きを理解して取り組めた。
個人評価B	練習を繰り返した事で、前時よりも更に正しく動くことができた。
個人評価C	マットに慣れて、マット上で体を動かす楽しさを味わった。
個人評価D	教師の見本を見て、自分が一生懸命練習したところを発表することができた。
個人評価E	「あわてなくていいよ」という声かけをした時には、自分の動きを意識していた。
個人評価F	カエル歩きやアヒル歩きは教師が支援しても難しかったが、馬歩きは動きを覚え、声かけによって一人で行えるようになった。

### (2) 次の授業の改善点

全体の改善点	幼児によって取り組むべき課題が違うため、それぞれの課題に取り組む時間を多く設けるようにする。
個人の改善点A	本児が全盲であることも考慮し、動きを事前学習して理解を深めておくようにする。
個人の改善点B	やりたがらない動きも練習できるようにする。
個人の改善点C	マット運動の各動きのポイントを絞って取り組めるようにする。
個人の改善点D	苦手だったところを部分的に練習するようにする。
個人の改善点E	一つ一つの動きを確実に覚えるようにゆっくり提示をする。
個人の改善点F	マットの感触に慣れ、マット上で体を動かす楽しさを味わえるようにする。



【三つ編みのタオル】



【見本の姿勢をたどる幼児】



【体育館の外周】



【マット運動の環境設定】

### ※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- (1) 健康な心と体 諦めずにやり遂げることで、達成感を味わい、心と体を十分に動かしている。  
(10) 豊かな感性と表現 体験して分かったことや感じた事、考えた事を自分で表現する。

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:40 〇〇教室

2 活動設定の理由

本活動の幼児は、歌を歌ったり、ピアノを弾いたりして音楽に対して関心を持ち始めている。友達と一緒に声を合わせて歌ったり、楽器を鳴らしたりする楽しさや、音楽を通して人と関わる経験ができるようにしたいと考えた。本活動は、友達の名前を呼び、呼ばれたら応える遊びであるため、視覚障害がある幼児においては、楽しむことができる活動である。幼児が歌を通してふれあいを楽しむことを期待して本活動を設定した。

※本活動で前提とする幼稚園教育要領5領域の内容に関連する事項

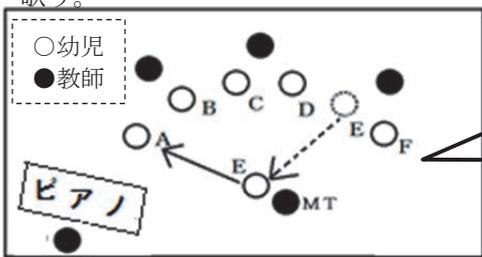
【表現】(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

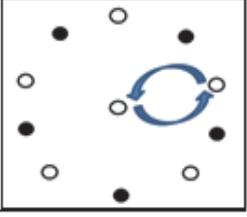
【言葉】(1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。

3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊びを通してリズムに合わせて手を叩く。(知識・技能の基礎)</li> <li>・遊び歌のルールが分かって、自分から友達を呼んだり、呼ばれたら応えたりする。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>・友達と一緒に遊び歌をすることでふれあう心地よさを感じる。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標A (5歳児 一般学級・全盲)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に合わせて大きな声で歌う。(知識・技能の基礎)</li> <li>・遊び歌のルールを理解し、楽しんで活動する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標B (5歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい音程で歌う。(知識・技能の基礎)</li> <li>・友達と一緒に活動する楽しさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標C (5歳児 重複学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び歌のルールを知り、友達と一緒に楽しむ。(知識・技能の基礎)</li> <li>・歌を歌うことで心地よさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標D (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や教師と声を合わせて楽しく歌う。(知識・技能の基礎)</li> <li>・呼ばれていない友達は誰なのかを考え、みんなで楽しむ。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標E (4歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口を大きく開けて歌を歌う。(知識・技能の基礎)</li> <li>・友達とのやりとりを楽しむ。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標F (3歳児 一般学級・弱視)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムに合わせて手を叩くことを楽しむ。(知識・技能の基礎)</li> <li>・遊び歌を通して友達と関わろうとする。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○始めのあいさつをする。</li> <li>○始まりの歌『手をつないでこんにちは』を歌う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しい雰囲気始める。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>当番が歌に合わせて友達に一人一人に握手をして、「こんにちは」とあいさつをする。それを受けた友達も「こんにちは」とあいさつを返す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○握手のために移動する時は衝突しないよう配慮する。</li> </ul>	椅子 ピアノ
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今月の歌を歌う。</li> <li>『コンコンクシャンのうた』</li> <li>『赤鼻のトナカイ』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌に登場する動物はどのようなマスクをしているのか話をし、イメージできるように支援する。</li> <li>○クリスマスに関連した話をし、クリスマスをイメージできるように支援する。</li> </ul>	
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手遊び『あたまのうえでパンパン』をする。</li> <li>・速度を変えてリズム打ちをする。</li> <li>・タンバリンを使って楽しむ。周りに衝突しない程度に広がり、立った状態で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リズム打ちで叩く体の場所を確認する。</li> <li>○始めはゆっくりとしたリズムで、徐々に速度を上げて楽しめるよう支援する。</li> <li>○輪を広げる時や手遊びを行う時には、衝突しないよう配慮する。</li> </ul>	タンバリン

15分	○遊び歌『どこでしょう』をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椅子を円形に並べて座る。</li> <li>・一人の幼児が中心に立つ。</li> <li>・真ん中の幼児が誰を呼ぶか決める。</li> <li>・全員で「○○ちゃん、○○ちゃん、どこでしょう」と歌う。</li> <li>・呼ばれた幼児は、「ここです、ここです、ここにあります」と歌い、いるところを知らせる。</li> <li>・友達にタッチし、タッチされた幼児は交代する。</li> <li>・繰り返し行う。</li> </ul>	
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『どこでしょう』の歌を聞いて歌を知る。</li> <li>・みんなで歌ってみる。</li> <li>・ルールの説明を聞く。</li> <li>・遊び歌を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児の名前を呼び、返事をするにより友達がどこに座っているかが分かるようにする。</li> <li>○ルールを説明し、見本を示す。</li> <li>○教師が輪の間に入り、一緒に歌ったり動き方を支援したりする。</li> <li>○友達を呼ぶ時や応える時に友達の方を向いて行えるよう支援する。</li> <li>○全員が一度は名前を呼ばれるように配慮する。</li> </ul> <p>※自立活動の内容に関連する事項</p> <p>(4) 環境の把握 ア 保有する感覚の活用に関すること</p> <p>(6) コミュニケーション ア コミュニケーションの基礎的能力に関すること。</p>	
5分	○『おわりのうた』を歌う。 ・当番があいさつをする。	○次回の予定を伝えて、期待感が持てるように支援をする。	

## 5 評価

### (1) 本時の評価

全体の評価	遊び歌では、名前を呼ばれた幼児が友達に積極的に「こっちだよ」と声をかけ、中心に立った幼児は声を頼りに友達に近づき、嬉しそうに手をつなぐ様子が見られた。
個人評価A	声かけによって大きな声で歌うことができた。遊び歌では、遊び歌のルールを理解し、楽しんで活動に参加できた。
個人評価B	高音と低音の差があるところを意識して歌うことができた。
個人評価C	友達の歌う声を楽しそうに聞きながら歌っていた。遊び歌は教師の支援で友達とのふれあいを楽しんだ。
個人評価D	友達や教師の声を聴きながら、きれいな声で歌っていた。歌詞を間違えてもあまり気にせず大きな声を出せるようになった。
個人評価E	口を開けるように声かけをすると、その時には、大きい声を出せていた。リズム打ちでは、立って演奏することを提案し、リーダーとなって楽しんでいた。
個人評価F	手遊びでは叩く場所の意識はまだないがリズム打ちが上手にできていた。遊び歌では、歌うことは難しいが何度か繰り返し行うことで自ら移動し友達にタッチすることができた。

### (2) 次の授業の改善点

全体の改善点	遊び歌のルールの確認後、理解ができている幼児には教師の支援を控え、友達の声を頼りにふれあえるようにする。
個人の改善点A	声かけがなくても大きな声で歌えるように促し、楽しく友達と関わられるようにする。
個人の改善点B	正しい音程で声を大きく歌えるように日常の中でも歌うようにする。
個人の改善点C	教師の支援を徐々に減らして、友達と関わる遊びを楽しめるようにする。
個人の改善点D	歌詞に自信がなさそうなところは、教師が小さい声で教えるようにする。
個人の改善点E	授業の始まる前に頬をマッサージし、口を大きく開けて歌えるように柔らかくしておく。
個人の改善点F	歌うことは難しいため、動き方を支援しながら手拍子でも楽しめるように促す。

※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

(9) 言葉による伝え合い 遊び歌を通して友達を呼び合う楽しさを味わう。

(10) 豊かな感性と表現 歌や手遊びで表現する喜びを味わう。

## 第6節 聴覚障害特別支援学校で大切にしたい支援

### 1 聴覚障害のある幼児の生活と学びを豊かにする支援

#### (1) 見て分かる環境づくり

聴覚障害のある幼児は、音声を聞いてその場の状況を判断することや、行動に移すことが難しい。そのため、目で見てすぐに分かる環境を作る必要がある。その際には、幼児が自分の行動に自信を持ち、安心して生活できることが大切である。

そのためには、教師は幼児と話す際には、幼児と視線が合うようにかがむなど、姿勢を低くしたり、教材がある場合にはどのようなものか丁寧に提示したりして、見て安心できる状況を作る必要がある。身振りや手話を使って話をする際には、表情を豊かにしたり、話が伝わりやすいように実際の物や写真、絵カードを併用して活用したりするなど、幼児の見る力を生かして分かりやすく安心できる環境を作る必要がある。

聴覚障害特別支援学校では、放送は字幕が流れる電光掲示板を使ったり、チャイムはライトを光らせたりして、見る力を使って情報が得られる環境を整えている。教室は、ドアを閉めることなく、常に開けた状態にしており、誰でも授業の様子がすぐに見られるようにしている。

また、座席の配置においては、半円型を作り、友達や教師と視線を合わせて話ができるよう配慮している。

#### (2) 体験活動の工夫

幼稚部では、季節の行事や買い物などの実生活に即した様々な体験活動を日課に位置づけている。体験活動では、見る力の他に、五感を体全体で感じられるような場面を設定している。例えば、調理体験では、作りたい料理が決まったら、まずは必要なものは何かを自分で考える。そして、友達と協働で作る料理を決めてどんな食材が必要かを話し合いながら実際に買い物へ行き、調理を始める。食材を触った感触や、完成した料理の香りや味わう体験など、様々な要素を含んだ体験を行う。

体験活動は、自ら考え、判断する場面や、友達と協力し合う場面、幼児期で大切な五感で感じる場面など、様々な場面を設定できる。

#### (3) 言語概念の形成

幼稚部においては、身振りや手話を使ってのコミュニケーションを大切にし、日本語を遊びや生活の中で日常的に学べるようにしている。例えば、季節感のある物や、幼児が好きな食べ物を実物と合わせて文字表記をして、自然と目に入りやすい場所に展示している。また、日々、言葉遊びや絵日記に取り組み、日常生活の中で身近に文字や言葉にふれられるような環境の工夫をしている。

#### (4) 豊かな心と言葉の育成

教師は、幼児が遊びを中心とした生活の中で、五感を働かせたり、自ら考えたりする力を日々積み重ねられるよう常に環境の工夫を行う必要がある。日常生活全般を通して、様々な環境において幼児同士で身振りや手話を使ってコミュニケーションが図られる場面を積極的に設け、幼児同士での話し合いを大切に、自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを受け入れる経験を深められるよう支援する必要がある。

「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」など、伝え方の手順を丁寧に説明することや、話す時にはできるだけ実物を提示し、言葉と物を結び付けることなど、言葉や文字の理解を深められるようにしている。

自分の気持ちを相手に伝えることが難しい時には、教師が間に入り、その場の状況に応じた伝え方や適切な言葉遣いを支援し、幼児同士が関わりを深められるようにしている。

また、友達と話すなどの直接的な関わりの他に、日常的に行っている絵本の読み聞かせなど、間接的にコミュニケーションを学ぶ場面を設定している。人には喜怒哀楽があり、話す際にはそのような気持ちを加味して話す必要があるなど、様々な角度から言葉に触れる機会を作っている。

## 2 聴覚障害のある幼児への支援や配慮の工夫例

### (1) 安全



①②廊下の曲がり角や階段の踊り場にはミラーを設置し、事故そのものを防止すると共に日頃から危険を回避する意識がもてるようにしている。

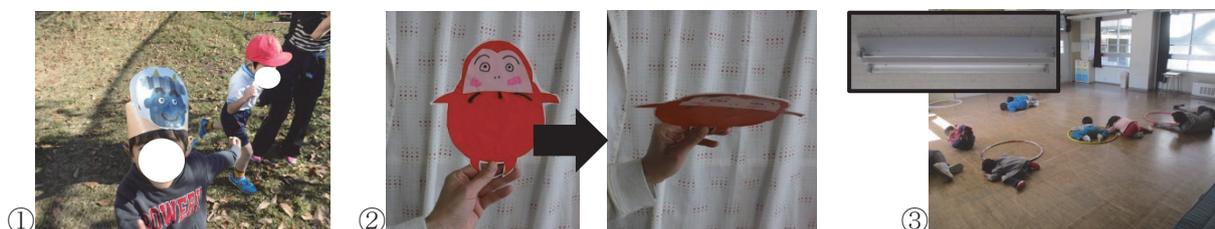
③④園庭は、幼児同士が遊んでいる最中にぶつかることの防止や、緊急時の避難がしやすいこと、幼児全員の行動を教師が把握しやすいことを目的として視界を遮るような障害物は置かないようにしている。

### (2) 見て分かる環境（配置などの工夫）



①②③④話したり遊んだりするときは、常に対面で教師や友達の手話や口形が見えるように、椅子や机の配置を工夫する。⑤⑥逆光にならないよう、場合に応じてカーテンを引く、立ち位置を配慮するなど、互いに見て伝え合えるような工夫をしている。

### (3) 見て分かる環境（道具やルールなどの工夫）



①②例えば「鬼ごっこ」では鬼が替わったことが声だけでなく見ても分かるようにお面を使ったり、「だるまさんが転んだ」では言い終わりが分かるように作った人形を使ったりして、誰もが見て分かるように工夫している。③歌い終わりや活動の切り替わり、集まりを知らせたい時など、電気を消して合図にする工夫もしている。

(4) 音を知る・聞きやすくする



①②チャイムが鳴る時はランプが点いたり、放送は電光掲示板でも流れたりと見て分かる設備を整えている。③④⑤⑥楽器や機械などには、音に代わって見て分かるようテープを取り付けたり、旗を使ったりするなどの工夫をしている。⑦聞きやすい環境作りのために、椅子やテーブルの下にテニスボールをつけて引きずり音などの雑音を減らすこともしている。

(5) 補装具など



それぞれの幼児の聞こえに合わせて補聴器や人工内耳を装用する。電池や聞こえのチェックも随時行方う。また、FM補聴システムという補聴器や人工内耳と一緒に利用することで聞こえにくい環境をより聞こえやすい環境にする装置を使う幼児もいる。

(6) 教材・教具（生活の中で）

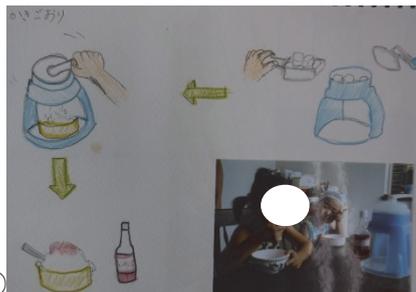


①②③④⑤廊下や教室の壁には、行事や季節の中で学ぶ言葉などを指文字、日本語、絵で掲示する。クイズ形式にして、楽しく興味をもてるよう工夫をしている。⑥⑦⑧生活の中でよく使う手遊びの歌詞カードを作ったり、あいさつを文字で掲示したりして、聞こえにくくても視覚的情報を多くすることで生活言語やマナーなどを覚えられるよう配慮している。⑨過去、未来など抽象的なこともできるだけ視覚的に学べるよう掲示物の工夫もしている。⑩お誕生会などの行事で幼児が司会をする時には、言葉だけでなく絵や手話も意識できるような掲示にしている。

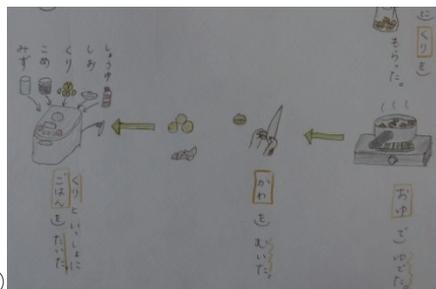
(7) 教材・教具（個別指導の中で）



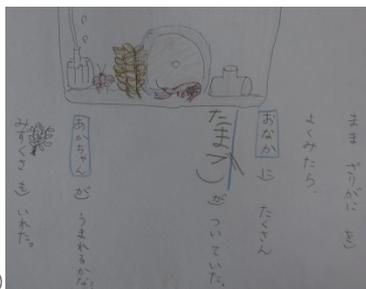
①



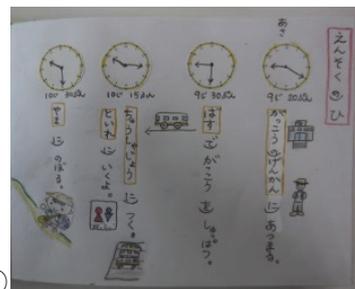
②



③



④



⑤

幼児それぞれの課題に合わせた教材・教具を使っている。音の聞き分け、発声・発音、手話、日本語、絵での表現などあらゆる方法でコミュニケーション力を伸ばすための学習を行っている。①音の聞き分けにはCDや絵カードなどを使う。②③④年齢や発達の課題によって、絵日記を保護者と一緒に描くこともある。状況の変化を丁寧に言葉に置き換えたり、助詞や形容詞などを指導したり、幼児が初期に日本語を覚えるきっかけを作ったりしている。保護者と幼児とのコミュニケーションをねらいにしている。⑤遠足のしおりは、時間の流れや「いつ、どこ、だれ」などを視覚的に学べるよう配慮しながら幼児と一緒に作っている。

(8) 電光掲示板



主に緊急を要する校内放送などを文字情報でも得られるようにしている。

3 聴覚障害特別支援学校幼稚部の日課表例

時間	月	火	水	木	金
9:15		登校・身支度			
9:30		遊び (園庭・室内遊びなど)			
11:30		学年・学級活動 (製作・リズム遊びなど)			
12:15		給食準備・給食 ・歯磨き・片付け			
13:10		下校準備			
13:30		帰りの会・下校			
14:30		個別活動		個別活動	

【日課表上における活動について】

- ①遊び
  - ・様々な体験ができるよう遊びを1日の生活の中に取り入れる。
  - ・異年齢集団での遊びを大切にする。
  - ・幼児が主体的な遊びを展開できるよう環境を工夫する。
  - ＜主な遊びの例＞  
泥・砂遊び、運動遊び、ルールのある遊び
- ②学年活動
  - ・同年齢集団での関わりが深められるよう活動を工夫する。
  - ＜主な活動例＞  
製作や劇遊び、ルールのある遊び、体づくり
- ③行事
  - ・季節などの行事を通して、様々な体験をする。
  - ＜主な行事の例＞七夕、歓迎会、遠足、保育園などとの交流
- ④個別活動
  - ・必要に応じて幼児の課題や学びを考慮した活動を実施する。
  - ＜主な個別活動の例＞  
文字や数、野菜や昆虫、乗り物などの概念、絵本・製作

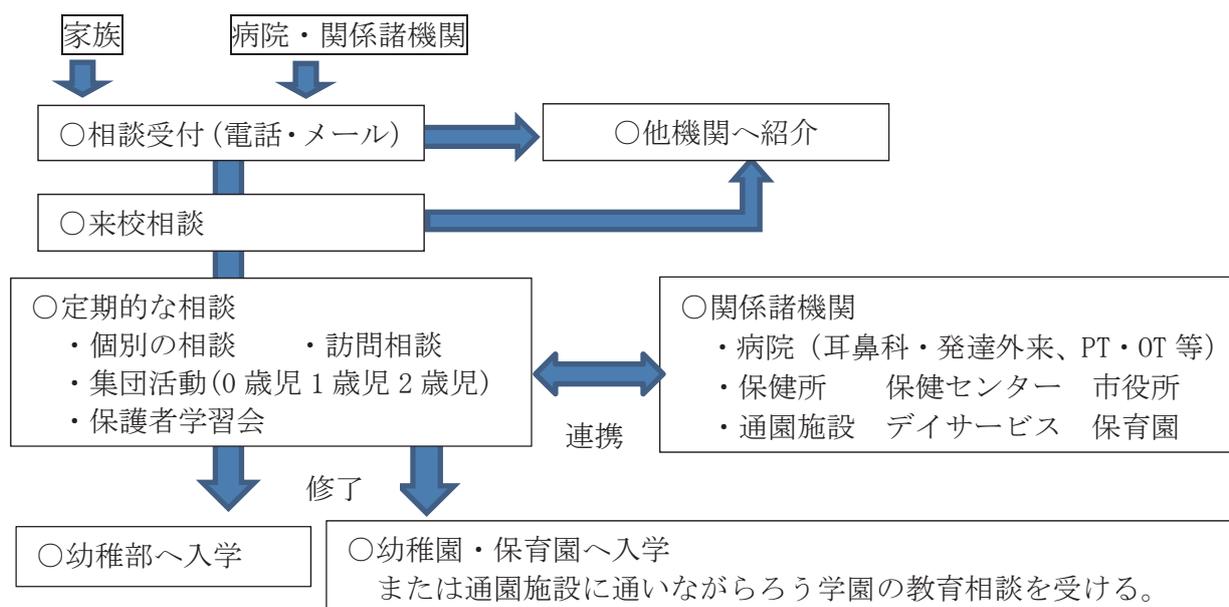
#### 4 聴覚障害のある幼児の保護者支援の実際

- (1) 保護者の気持ちを受け止め、一緒に子供に向き合えるよう寄り添う。保護者は迷ったり悩んだりするなど、様々な気持ちや思いを抱えながら子育てをしている。そのような保護者の気持ちや思いをしっかりと受け止め、家庭での様子、保護者の不安や願いなどを丁寧に聞き、子供のこれからの成長について保護者と共に前向きに考えていけるよう支援する。
- (2) 学校生活での様子やねらいについて、保護者に理解してもらうよう丁寧に話をする。共通のコミュニケーション手段となる手話に関しては、手話学習会を行うなどして保護者への周知、理解に努める。
- (3) 医療機関や幼稚園、保育園、通園施設等、関係諸機関と連携しながら、保護者と共に、子供の実態把握、課題、配慮など、共通理解に努める。
- (4) 保護者学習会の主な例

期日	内容
5月24日(水)	手話勉強会(子供や教師の手話ネームについて)
6月2日(金)	手話勉強会(天気、オノマトペの表現)
7月13日(木)	聞こえについて(聴覚支援部の教師友達による難聴体験等)
9月20日(水)	手話勉強会(紙芝居をしよう)
9月26日(火)	兄弟支援について(ろう教師の体験談より)
11月20日(月)	小学部生活について(小学部主事の話)
11月28日(火)	社会人経験・子育て経験について(ろう教師の体験談より)
12月20日(水)	手話勉強会(年末年始、干支の表現)
1月30日(火)	手話勉強会(アルファベット、節分、インフルエンザの表現)
2月22日(木)	自分の子育ての方法、工夫について(本校保護者の体験談より)
3月8日(木)	手話勉強会(やりとりしよう)

#### 5 早期教育相談

- (1) 乳幼児教育相談の対象は、聴覚障害のある乳幼児とその保護者(家族)である。聴覚障害のあると診断され、医療機関などから紹介された乳幼児に対し、速やかに相談・支援を開始する。近年は新生児聴覚スクリーニングが普及し、0歳から開始することが多い。また、新生児スクリーニングを受け、確定診断前の不安な保護者に対しても要望があれば、適切な診断機関を紹介するなど相談を行う場合もある。
- (2) 乳幼児教育相談の流れ



- (3) 乳幼児教育相談で大切にしていること
- ①保護者支援のあり方を検討し、充実を図る。
  - ②視覚的な手段を大切にしたコミュニケーションに努める。
  - ③乳幼児一人一人の特性に応じた保育・相談活動に努める。
  - ④快適な聞こえについて相談する。
  - ⑤他機関との連携を図る。
- (4) 乳幼児教育相談の内容
- ①保護者に対する内容
    - ア 聴覚に関すること（聞こえにくさの理解、補聴器・人工内耳）
    - イ 乳幼児の全面的な発達を促す内容
    - ウ コミュニケーションや手話に関すること
    - エ 視覚的手段に関すること（写真・実物・絵の活用など）
    - オ 福祉に関すること
    - カ 家庭生活、育児に関すること
  - ②乳幼児に対する内容
    - ア 生活・遊びなど、全面的な発達を促す内容
    - イ コミュニケーション（楽しく分かり合える手段・工夫・言語の基礎）
    - ウ 聴力測定・補聴器の調整など、聴覚の活用に関すること

(5) 諸機関との連携

病院では、難聴と診断すると療育機関を紹介する。県内には聴覚障害特別支援学校の他に、難聴児通園施設が1箇所、聴能訓練機関が2箇所ある。病院でも少数の対応ではあるが、補聴器外来や言語訓練室を設け、療育を行っている。学校は、保護者が機関を選択、変更、移行する時につなぎ役として、乳幼児や保護者にとって長期的な展望に立った最適な環境を提供できるよう努めている。

(6) センターの機能に関する事業

①難聴児早期発見連絡会議

通学区域内の保健所や、保健センターの保健師を対象とした理解啓発に向けた幼稚部教育の概要説明を含めた保育見学会、乳幼児教育相談の内容報告、聞こえにくさの体験、聴力検査室を中心とした施設の案内、耳鼻科医師による講演を行っている。

②難聴乳幼児諸機関担当者会

県内にある難聴乳幼児の医療や、療育、教育などの11の機関が年3回会合し、難聴乳幼児に関係する事例の報告や情報交換を行っている。

③公開講座（支援部主催）

保育園、通園施設などを対象に難聴乳幼児に対する支援方法などの理解啓発や手話に係る講座を開いている。

④訪問相談

現在、相談中のお子さんが通っている療育機関及び保育園を訪問し、難聴理解のための支援を行っている。

保護者に限らず、保育関係者、病院、施設関係者からの相談も受け付けております。聞こえ方や子育てに関する相談は、下記までお気軽にご相談ください。

特別支援学校大宮ろう学園幼稚部 教育相談

電話 048(663)7525 Fax 048(660)1906

Mail [sien@ohmiya-sd.spec.ed.jp](mailto:sien@ohmiya-sd.spec.ed.jp) URL <http://www.ohmiya-sd.spec.ed.jp>

特別支援学校坂戸ろう学園幼稚部 教育相談

電話 049(281)0174 Fax 049(283)9899

Mail [sodan@sakado-sd.spec.ed.jp](mailto:sodan@sakado-sd.spec.ed.jp) URL <http://www.sakado-sd.spec.ed.jp/>

6 聴覚障害特別支援学校幼稚部における学びに応じた実践事例

(1) 聴覚障害特別支援学校の年間指導計画例

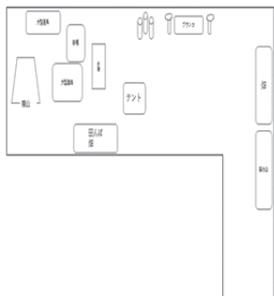
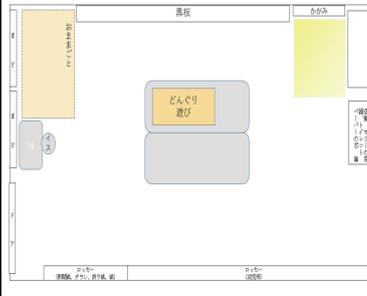
平成〇〇年度 幼稚部年間指導計画

【学級名：一般学級（年中）】

各学期の目標	1 学期				2 学期				3 学期		
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新しい生活の仕方が分かり、自分でやろうとする。 自分のやりたいことを見つけて遊ぶ楽しさを感ずる。 季節の植物や生き物と触れ、関心や愛情をもつ。	生活の流れがわかり、自分から進んで行動しようとする。 友達や年上の友だちに関心をもちあそび、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 畑の植物に関心をもち世話をする。	誕生日が近づいて、自分から進んで行動しようとする。 友達や年上の友だちに関心をもちあそび、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 畑の植物に関心をもち世話をする。	身の回りのことを自分から進んで行おうとする。 友達や年上の友だちとの関わりを深め、いろいろな遊びや活動を十分に楽しむ。 季節の行事に関心をもち、工夫しながら遊びに取り入れようとする。	気運の変化に気づき、友達思いに気づいたり、共感しながら遊ぶ楽しさを味わう。 生活や遊びの楽しみを知り、3年生になる期待や喜びをもつ。							
行事	誕生会 (4月、5月) 遠足 こどもの日週間 運動会	誕生会 (6月、7月) ざりがに祭り 交流会 (地域の保育園、ななふく苑) お泊まり会	誕生会 (8月、9月) 野外活動 交流会 (地域の保育園)	あゆみ祭 遠足 誕生会 (10月、11月) 交流会 (地域の保育園) おたのしみ会 終業式							
健康	体重測定 避難訓練 内科検診 眼科検診	心臓検診 学校公開 歯科検診 耳鼻科検診	体重測定 入学式 給食 学校公開 避難訓練	発達測定 授業参観 入学相談 体重測定							
遊び	どろんこ遊び 集団遊び (ドッジボール、サッカー) 水遊び、プール、泡あそび 固定遊具遊び イメージ遊び (季節の行事、遠足にむけて等)	砂、どろんこ遊び、泡遊び 集団遊び (大縄跳び・ドッジボール、サッカー) 固定遊具遊び イメージ遊び (季節の行事、遠足、あゆみ祭に向けて等)	砂、どろんこ遊び、泡遊び 集団遊び (大縄跳び・ドッジボール、サッカー) 固定遊具遊び イメージ遊び (季節の行事、遠足、あゆみ祭に向けて等)	正月遊び 固定遊具 集団遊び (鬼ごっこ、劇遊び) 運動 (大縄 短縄 ボール 鉄棒 マラソン) イメージ遊び (季節の行事、遠足、あゆみ祭に向けて等)							
ことば	ごっこ遊びなどを通して、周囲の人の表情を見ながら、様々な表現方法に興味を持つ。 自分の思いや考えを言葉で表現し、友だちの考えを言い換える。	ごっこ遊びなどを通して、周囲の人の表情を見ながら、様々な表現方法に興味を持つ。 自分の思いや考えを言葉で表現し、友だちの考えを言い換える。	自分が経験したことや興味のあることを手話等で伝え、教師や友達とのやりとりを楽しむ。 ひらがなや指文字に興味を持つ。 絵本や図鑑などを自分で見たり、調べたりして楽しむ。	相手の説明をよく見て、理解しようとする。 自分や友達の名前をひらがなで書けるようになる。 自分の名前に興味をもつ。							
絵本	自然に関する絵本 (野菜、虫、魚、春、夏、雨) 行事に関する絵本 (運動会、山登り、はみがき、からだ) ものがたり	自然に関する絵本 (野菜、木の葉、虫、秋、冬) 行事に関する絵本 (運動会、サンタクロース、お月見) ものがたり	自然に関する絵本 (野菜、木の葉、虫、秋、冬) 行事に関する絵本 (運動会、サンタクロース、お月見) ものがたり	自然に関する絵本 (雪、こおり、野菜、果物、鳥、冬、春) 行事に関する絵本 (もちつき、豆まき、ひなまつり、成長) ものがたり							
製作	こいのぼり お別れ会のプレゼント 遠足・運動会の絵 ぬたくり	自分の顔 ざりがにの福絵画 父の日プレゼント	祖父への手紙の郵送 リサイクル品で作る (自由作 お店屋さん) ミニ運動会看板 (ダイナミック) 指先での物作り (糸通し、編み物) リサイクル品で作る (自由作 お店屋さん)	もちつき会の看板 たこあげ カルタ作り 書き初め おひなさま 3年生へのプレゼント作り							
畑	季節野菜の栽培 (そらまめ、たまねぎ、きゅうり、トマト等) 水やり、収穫、調理	季節野菜の栽培 (そらまめ、たまねぎ、きゅうり、トマト等) 水やり、収穫	季節野菜の栽培 (サツマイモ、にんじん等) 水やり、収穫	季節野菜の栽培 (サツマイモ、にんじん等) 水やり、収穫							
歌、リズム、ダンス	手話歌 (季節の歌、帰りの会) リズム ダンス	手話歌 (季節の歌、帰りの会) リズム ダンス	手話歌 (季節の歌、帰りの会) リズム ダンス	手話リズム リズム 表現 (劇ごっこ、ダンス)							
散歩	芦山公園 シーソー公園	芦山公園 体産寺公園	芦山公園 溝端公園 買い物体験	稲荷久保公園 芦山公園 買い物体験							
個別学習	ことば かず 運動 (身体を使い方、体幹運動遊び等) 絵日記 概念形成 かたち 描画	ことば かず 運動 (身体を使い方、体幹運動遊び等) 絵日記 概念形成 かたち 描画	ことば かず 運動 (身体を使い方、体幹運動遊び等) 絵日記 概念形成 かたち 描画	ことば かず 運動 (身体を使い方、体幹運動遊び等) 絵日記 概念形成 かたち 描画							
自立活動	手話、身振り、口話を楽しむ。また、指文字で伝えられることを知る。 自分の好きな遊びや活動を楽しむだけでなく、苦手なことも挑戦しようとする。	生活の中の文字や数字、物の名前に関する興味を持つ。 自分や身近な人との具体的な経験に基づいての語の理解ができ、自分からも様々な表現 (手話、身振り等) で伝える。 集団活動への参加とルールを理解する。	言葉に興味を持ち、指文字で読もうとする。「いつ」「どこ」「だれ」「なに」などの質問に答えられる。 様々な遊び (イス取りゲーム、鬼ごっこ、フルーツバスケット等) をルールを守りながら、友達と楽しく活動する。	言葉に興味を持ち、指文字で読もうとする。「いつ」「どこ」「だれ」「なに」などの質問に答えられる。 様々な遊び (イス取りゲーム、鬼ごっこ、フルーツバスケット等) をルールを守りながら、友達と楽しく活動する。							

(2) 聴覚障害特別支援学校の日案例  
4歳児（一般学級） 日案

担任 ○○ ○○

○月○日（○曜日）				
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じながら、体を思い切り動かして遊ぶ。 <b>(知識・技能の基礎)</b></li> </ul>		評 価	<p>全員が元気に登校し、自由遊びでは友達を誘い合って、他のクラスの幼児も含めて「こおりおに」を楽しんだ。劇遊びでは、一人一人が台詞や表現方法を考えて発表することができた。友達が表現している時には、楽しそうな表情でよく見ていた。今後は、活動の振り返り発表の内容を豊かにしていけるようにしていきたい。準備や片付けは、友達と一緒に速さを競い合いながら行っている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや思いを表現し、相手に伝わる楽しさや嬉しさを味わう。 <b>(思考力・判断力・表現力の基礎)</b></li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備や片付けなど、生活に必要なことを自ら進んで行う。 <b>(学びに向かう力・人間性等)</b></li> </ul>			
物 的 環 境 の 構 成	①自由遊び		②学年、学級活動	
	屋外	室内	創作劇遊び「三びきのやぎのらがらどん」 (登場人物) やぎ、トロール (内容) お腹を空かせたやぎたちは山へ草を食べに行く。その途中の橋の下には、渡るやぎを食べようとする恐ろしいトロールがいる。やぎはトロールとやりとりをして橋を渡る。(最後のやぎがトロールを倒す。) 最後はみんなが無事に橋を渡りきり、山で草を食べる。 (ねらい) 劇遊びを楽しみ、やぎとトロールとのやりとりの場面を自分なりに考えて表現しよう。 <b>(豊かな感性と表現、言葉による伝え合い、思考力)</b>	
	<p><b>(健康な心と体、言葉による伝え合い、自然との関わり生命尊重、協同性、豊かな感性と表現)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>固定遊具 (すべり台、ブランコなど)</li> <li>砂場</li> <li>おにごっこ</li> <li>リレーごっこ</li> <li>落ち葉遊び</li> <li>築山でそりすべり など</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本</li> <li>リサイクル材料を使った製作</li> <li>絵を描く</li> <li>ブロックやパズル</li> <li>おままごと</li> <li>どんぐり遊び など</li> </ul>	
				
時間	幼児の活動	教師の指導と支援	配慮事項	指導の関連性
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●登校する。</li> <li>●挨拶をする。</li> <li>●かばんの所持品を所定の場所に置く (水筒 タオル 連絡ファイル 給食着)。</li> <li>●日付を確認し、カレンダーにシールを貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆元気に挨拶を交わす。</li> <li>◆所持品を所定の場所に置けるよう個に応じた言葉かけをする。</li> <li>◆絵カード等を使い、カレンダーに日付や曜日等のシールが貼れるよう言葉かけをする。(できるだけ一人でシールが貼れるよう個に応じた支援をする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○声の大きさや、教室の明るさに配慮する。</li> <li>○保護者から家での様子や体調を聞き、幼児の状態を把握する。</li> <li>○連絡ファイルに目を通し、内容を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自立活動 6区分</li> <li>■幼稚園教育要領5領域</li> <li>◎幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>■人間関係</li> <li>◎数量・図形、文字等への関心・感覚</li> </ul>
9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●好きな遊びをする (自由遊び)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆やりたい遊びを見つけられるような言葉かけをする。</li> <li>◆友達のやっている遊びにも関心を向けたり、ルールを守って遊ぶように支援する。</li> <li>◆安全に遊べるように、個に応じて声をかける。</li> <li>◆おにごっこなどのルールのある遊びでは、教師も幼児と一緒に楽しみながら参加し、教師の動きや言葉でルールを確かめられるようにする。</li> <li>◆友達とのやりとりの中で、伝え合いが不十分な時や互いの主張がぶつかる時は、一人一人の気持ちを受け止めながら、お互いの思いや考えを表現し伝え合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児の興味・関心を把握する。</li> <li>○固定遊具では、順番を守る、交換するなどのルールを守って遊べるように支援をする。</li> <li>○ケガのないように安全に気を配る。</li> <li>○おにごっこでは、おにが誰なのか分かるように、お面などを用意しておく。(「こおりおに」では、こおっている時のポーズを確認する。)</li> <li>○落ち葉や気候の変化にも気づけるような言葉かけを心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>★人間関係の形成</li> <li>★環境の把握</li> <li>★身体の動き</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■人間関係</li> <li>■健康</li> <li>◎健康な心と体</li> <li>◎協同性</li> <li>◎道徳性・規範意識の芽生え</li> </ul>

10:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遊びを終わりにして片付けをする。</li> <li>●手洗いうがい、水分補給、排泄をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆遊びの時間が終了したことを伝え、遊びに使った物を一緒に片付ける。</li> <li>◆手洗いうがいを丁寧にするよう声をかける。</li> <li>◆補聴器や人工内耳の状態を確認し、汗でぬれている時は汗を拭きとり、必要に応じて補聴器用乾燥機又は人工内耳用乾燥機に入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びに使った物を（写真カードを手掛かりにするなど）所定の場所へ戻すよう声をかける。</li> <li>○手を石鹸できれいに洗うよう言葉かけをする。並ぶ順番を守ることの大切さを伝える。</li> <li>○衣服の汚れを見て、必要な幼児には着替えるように声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>■健康</li> <li>◎社会生活との関わり</li> </ul>
11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝の会をする。</li> <li>挨拶、名前呼び、日付、曜日、天気、今日の予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆朝の会の進行役や話している幼児に注目するように支援する。</li> <li>◆名前呼びは、呼名の他に簡単なクイズ（洋服の色、絵柄等）を入れながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イスを馬蹄形にし、お互いを見合えるようにする。</li> <li>○教室の明るさに配慮する。</li> </ul>	
11:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●創作劇遊びをする。</li> <li>・絵本の読み聞かせ</li> <li>・前回の劇遊びの振り返り</li> <li>・登場人物の確認と役決め</li> <li>・役のお面をかぶっての劇遊び</li> <li>・橋（平均台）を渡る時のトロールとのやりとりを考えて発表</li> <li>・自分の考えた方法で表現しながら劇遊び</li> <li>・劇遊びを振り返り、感想やがんばったことの発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆絵本「三びきのやぎのがらがらどん」の読み聞かせを行う。</li> <li>◆前回の幼児の動きや表現で良かった点、面白かった点を伝えながら、劇遊びの内容や流れを確認する。</li> <li>◆役決めでは、自分のやりたい役に手を挙げるように伝える。役が重なった時は、どうやって決めたら良いか幼児の考えを聞き相談して決める。（幼児からはじゃんけん、くじ引きが出てくると予想される。）</li> <li>◆はじめに教師が流れを作り、繰り返しの台詞や動き、表現を楽しみながら、劇あそびができるようにする。</li> <li>◆劇の見せ場であるやぎとトロールのやりとりの場面に注目し、どうしたら橋を渡るかを考えるように促す（食べ物を渡す、じゃんけん、気をそらすなどは出でくると予想される）。出て来ない時には、友達の意見を参考にしたり、普段の遊びの中で使っている物や方法をヒントにしたりして提案する。</li> <li>◆劇遊びでは友達の動きや表現もよく見るよう支援する。</li> <li>◆一人一人が感想や頑張ったことを発表できるように、一緒に劇遊びを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本は、登場人物の繰り返しセリフや動き等と一緒に真似しながら楽しく読み進める。</li> <li>○役のお面、カード、絵本など場面と登場人物を結びつけながら活動できるようにする。</li> <li>○橋に見立てる平均台は、2台並べて幅を広くし渡りやすくする。橋を渡るやぎとトロールとのやりとりを見やすくするために置く位置に気を配る。平均台の下には川に見立てた青いマットを敷き、万が一落ちて大丈夫ようにする。</li> <li>○安全に配慮しながら行う。</li> <li>○幼児の動きや表現をよく見ながら、必要に応じて教師がモデルとなって、幼児と一緒にやる。</li> <li>○お互いが発表を見合い、自分とは別の意見や考えがあることに気づき、知ることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★人間関係の形成</li> <li>★環境の把握</li> <li>★コミュニケーション</li> <li>■言葉</li> <li>■人間関係</li> <li>■表現</li> <li>◎思考力の芽生え</li> <li>◎数量・図形、文字等への関心・感覚</li> <li>◎言葉による伝え合い</li> <li>◎豊かな感性と表現</li> </ul>
12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●給食の準備をする。</li> <li>●給食を食べる。</li> <li>●食器などを片付ける。</li> <li>●歯みがきをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆手洗い、うがいをするよう声をかける。</li> <li>◆幼児が自分でよそえるように、配膳の補助をする。</li> <li>◆楽しく食べられるような言葉かけをしながら一緒に食べる。</li> <li>◆自分の食器やエプロンやランチョンマットを片付けるよう支援する。</li> <li>◆丁寧に歯を磨くように見本を示したり、言葉かけをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○順番を守ることの大切さを伝える。</li> <li>○給食のおかずは、必要に応じて刻みバサミで適切な大きさに切る。</li> <li>○食材についての話をする等して楽しく食事ができる雰囲気を作る。</li> <li>○苦手なものも、友達や教師と励まし合いながら挑戦してみようとする気持ちを育てる。</li> <li>○安全に配慮する。</li> <li>○忘れ物がないか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★健康の保持</li> <li>★環境の把握</li> <li>■環境</li> <li>■健康</li> <li>◎健康な心と体</li> </ul>
13:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帰りの準備をする。</li> <li>自分の所持品をかばんに入れる。</li> <li>●排泄をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分の所持品をかばんに入れるよう支援する。</li> <li>◆配布物（お手紙）は二つ折りにしてファイルに入れるように声をかける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>★環境の把握</li> <li>■環境</li> <li>◎数量・図形、文字等への関心・感覚</li> <li>◎健康な心と体</li> </ul>
13:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帰りの会をする。</li> <li>・絵本の読み聞かせ</li> <li>・一日の活動の振り返り</li> <li>・翌日の予定の確認。</li> <li>・挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆一日の遊びや活動などを振り返り、幼児一人一人が楽しかったことを発表できるようにする。</li> <li>◆発表している幼児に注目するよう声をかける。視覚的なカードなどを活用する。</li> <li>◆次の日の活動を楽しみにできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イスを馬蹄形にし、お互いを見合えるようにする。</li> <li>○教室の明るさに配慮する。</li> <li>○翌日の予定を伝えて、期待が持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★人間関係の形成</li> <li>■人間関係</li> <li>■表現</li> <li>◎協同性</li> <li>◎言葉による伝え合い</li> </ul>
13:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者などと下校する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆保護者に子供の一日の様子を伝える。</li> <li>◆翌日の活動を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者と成長を共有し合う。</li> </ul>	

※絵本出典：「(ノルウェーの昔話) 三びきのやぎのがらがらどん」(福音館書店) マーシャ・ブラウン絵/瀬田貞二訳

### (3) 聴覚障害特別支援学校の指導事例

#### 聴覚障害特別支援学校幼稚部 学級活動（朝の会） 指導案

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 9:15～9:30 幼稚部重複〇〇教室（3, 4, 5歳児）

#### 2 活動設定の理由

朝の会においては、2学期に入り、一日の始まりに期待感を持っている姿が見られるようになった。次の課題として幼児同士でよりよいコミュニケーションを図り、友達と関わり合おうとする気持ちを育てていきたいと考える。

紙皿シアターは見て変化を楽しみながら、友達との関わりを深められる教材である。一日の始まりである朝の会で友達との関わりについて期待感をもち、友達と自ら関わろうとする気持ちを育てていきたいと考え、本活動を設定した。

#### ※本活動で前提とする幼稚園指導要領5領域の内容に関連する事項

【人間関係】（7）友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。

【言葉】（5）生活の中で必要な言葉が分かり、使う。

#### 3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気に挨拶をする。（知識・技能の基礎）</li> <li>・紙皿シアターを見て、意欲的に呼名に応える。（思考力・判断力・表現力の基礎）</li> <li>・友達や教師と一緒に活動する楽しさや心地よさを感じる。（学びに向かう力・人間性等）</li> </ul>
個人目標A 4歳児・重複学級 聴力（右100・左110）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙皿シアターを見て、紙皿の変化を想像しながら楽しむ。 (思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>・当番の仕事に意欲的に取り組む。（学びに向かう力・人間性等）</li> </ul>
個人目標B 3歳児・重複学級 聴力（右95・左90）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を手話でゆっくりと大きく表現する。（知識・技能の基礎）</li> <li>・友達からの呼びかけなど、友達の動きに視線を向ける。（思考力・判断力・表現力の基礎）</li> <li>・紙皿シアターに期待感を持ち、注目する。（学びに向かう力・人間性等）</li> </ul>
個人目標C 5歳児・重複学級 聴力（右60・左70）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙皿シアターに触れたり、近くで見たりすることで、意識することができる。 (学びに向かう力・人間性等)</li> <li>・自分の顔や友達の顔写真を見て、手を伸ばしたり表情で表したりする。 (思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>

#### 4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今日の当番を確認する。</li> <li>○当番が前ではじめの挨拶をする。 「おはようございます。これから朝の会をはじめます。」</li> <li>○今日の日付を確認する。</li> <li>○当番は日付カードと活動カードを友達や教師と確認しながらホワイトボードに貼る。</li> <li>○当番は自分の席に戻る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○注目しているか確認して始める。</li> <li>○手話をゆっくり大きく表現する。</li> <li>○当番に視線が向くよう支援をする。</li> <li>○当番の進行を支援する。当番は、カードを友達や教師に示しながらホワイトボードに貼るようになる。</li> <li>○今日の活動カードを提示し、一つ一つ丁寧に、いつ、どこで、だれと、なにをするなど、丁寧に説明する。</li> <li>○幼児に質問をしたり、確認をしたりする。友達にも視線がいくよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当番写真カード</li> <li>当番の言葉カード</li> <li>日付カード</li> <li>ホワイトボード</li> </ul>

5分	<p>○紙皿シアターを見る。</p> <p>○紙皿が回転する度に、顔写真が変化することに気が付く。</p> <p>○自分の名前が呼ばれたら手を挙げて返事をしたり、顔を上げたりする。</p> <p>○欠席の幼児を全員で呼名する。</p> <p>○当番が終わりの挨拶をする。 「これで朝の会を終わります。」</p>	<p>○紙皿シアターを提示し、幼児同士で始まる期待感が高められるよう支援する。</p> <p>○幼児の状況に合わせて、紙皿を目の前に提示したり、手で触れられたりするなど、興味関心が高められるよう支援する。</p> <p>○幼児同士で楽しさを共感し合うよう支援する。</p> <p>○欠席の幼児の呼名をする際には、全員で同時に呼べるよう「せーの」と掛け声をする。</p> <p>○それぞれ椅子を片付けるように伝える。</p> <p><u>※自立活動の内容に関連する事項</u> (3) 人間関係の形成 エ 集団への参加の基礎に関すること。</p>	紙皿シアター
----	---	--	--------

## 5 評価

### (1) 本時の評価

全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の顔写真がある紙皿シアターを楽しく活動することができた。</li> <li>・紙皿シアターを幼児が自分から取り組もうとすることができた。</li> </ul>
個人評価A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当番が自分の役割だと分かって活動できた。</li> <li>・紙皿シアターは見るだけでなく、動かしてみたいという気持ちを持つことができた。</li> </ul>
個人評価B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙皿シアターでは、自分や友達の顔写真に注目することができた。</li> <li>・当番や教師の呼びかけに応じることができた。</li> </ul>
個人評価C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の前に提示された紙皿シアターに注目することができた。</li> <li>・紙皿シアターに手を伸ばすことができた。</li> </ul>

### (2) 次の授業の改善点

全体の改善点	・幼児が活動全体の動きに合わせて動けるよう支援をする。
個人の改善点A	・紙皿シアターを自分で動かせるよう支援をする。
個人の改善点B	・友達に視線が向き、友達の動きに応じられるよう支援をする。
個人の改善点C	・紙皿シアターの動きに注目し、その動きの変化を楽しめるよう支援をする。

### ※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

(9) 言葉による伝え合いを歌う。 先生や友達と心を通わせ、言葉でのやりとりを楽しむ。

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:00～11:30 遊戯室

2 活動設定の理由

日常生活で使う簡単な手話を覚えられるように手遊び歌などで楽しく活動している。今後は、友達同士での言葉でのやりとりにつなげていけるようにしていきたいと考えている。また、日本語にリズムがあるのと同じように、手話にも指を揺らしたり止めたり、振る回数を意識したりするなどのリズムがある。速く、またはゆっくり表したり、友達と合わせたりするなどして、体全体でリズムを感じて表現することの楽しさを味わってほしいと考える。自分が表現して伝えることだけでなく、友達の表現している様子を見ることにも関心を持ってほしいと考え、本活動を設定した。

※本活動で前提とする幼稚園指導要領5領域の内容に関連する事項

【表現】(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

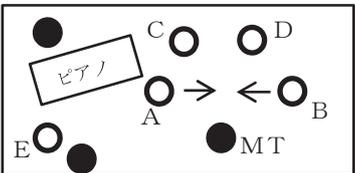
【言葉】(8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。

【人間関係】(7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。

3 ねらい

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活で使用する簡単な手話表現を知る。(知識・技能の基礎)</li> <li>表現することの楽しさを知る。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>意欲的に体を動かし、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標A 4歳児・重複学級 聴力(右100左90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の手の形をよく見て、細かく模倣する。(知識・技能の基礎)</li> <li>友達や教師の表現方法を見て、いろいろな表現のイメージを膨らませる。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標B 5歳児・重複学級 人工内耳	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き物の絵カードを見て、自分なりのイメージで身体を動かす。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>友達と共にフープを持ち、一緒に活動する楽しさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標C 4歳児・重複学級 聴力(右95左90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物になりきり、身体を大きく動かして表現する。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>自分から意欲的に友達と関わり、一緒に活動する楽しさを味わう。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標D 5歳児・重複学級 聴力(右50左60)	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌やリズムに合わせて、手話や身振りで表現する。(知識・技能の基礎)</li> <li>友達の表現に興味を持ち、動きのイメージを膨らませる。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標E 5歳児・重複学級 人工内耳	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵カードや友達の動きを見て、イメージを膨らませ、身体を動かす。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> <li>友達の様子や活動に興味を持ち、参加しようとする。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
5分	<p>○はじまりの手遊びをする。 「あたま・かた・ひざ・ぽん」 「グー・チョキ・パー」 「手をたたきましょう」 など</p>	<p>○話をする教師に注目するよう言葉かけをする。 ○幼児が期待感を持って取り組めるようタイミングを見ながら行う。</p>	ピアノ
10分	<p>○「握手でこんにちは」の歌に合わせた表現をする。 ○日常で使用する簡単な手話を知る。 ○友達と向き合い、お話しをする。</p> 	<p>○友達と一緒にいることを意識できるよう支援する。 ○手話が理解できるよう、見本ではゆっくり手を動かす。 ※自立活動の内容に関する事項 (6) コミュニケーション ア コミュニケーションの基礎的能力に関すること。</p>	ピアノ

10分    5分	○「いきものになろう！」のリトミックをする。 例※ぞう『ドーン、ドーン（ゆっくり2本足で歩き、腕をふる）』 くま『ドン、ウン、ドン、ウン（4本足で休みながら歩く）』 かに『タンタンタンタン（横向きで片足ずつ出しながら歩く）』 かえる『タタン、タタン（両手両足を使いかえる跳びをする）』 どんぐり『トトトトトト（両腕を伸ばして寝転がり横回転する）』	○手話表現だけでの理解が難しい幼児には、絵カードに注目できるよう声かけをする。 ○見本では、大きく身体を動かして表現し、幼児のイメージを引き出すよう支援する。 ○幼児が自由に表現できることを大切にしたい支援をする。	太鼓 ばち 絵カード
	○「ぐるぐる まわれ」の歌に合わせて友達と一緒に動く。 ○歌い終わりは電気を消して暗くする合図で、みんなで一緒に床に寝る。	○友達と一緒にフラフープをもち、友達と動きを合わせて回るよう支援する。 <u>※自立活動の内容に関する事項</u> 3 人間関係の形成 (4) 集団への参加の基礎に関すること。	ピアノ フラフープ
	○終わりの挨拶をする。	○楽しく活動できたことを振り返る。それぞれの幼児の良かった点を褒める。	



## 5 評価の観点

### (1) 本時の評価

全体評価	音の振動や光の点滅を合図に、曲のリズムに合わせて動くことができた。生き物の表現や手遊び歌は、自分から意欲的に取り組む姿が見られた。繰り返し行っている活動であるため、見通しがもて、友達と一緒に楽しい雰囲気の中で取り組めるようになってきた。
個人評価A	教師の手の形に注目し、自分から進んで手話表現をすることができた。友達の表現する様子に注目し、いろいろな表現方法を考えることができた。
個人評価B	絵カードからイメージを膨らませ、自分なりの表現で楽しく体を動かすことができた。友達と一緒にフープを持ち、一緒に活動する楽しさを味わうことができた。
個人評価C	動物の表現では、それぞれの特徴をよくつかみながら動物に成りきって体を動かしていた。フラフープを使っでの活動では、友達の動きに合わせて速さを調節しながら回る姿が見られた。すべての活動に集中して参加することができた。
個人評価D	手遊びが始まると、歌に合わせて自分から表現を楽しむ姿が見られた。手の位置や向きなど、意欲的に模倣をしようとしており、リズムに合わせて取り組むことができた。
個人評価E	好きな活動（リトミック、ぐるぐるまわれ）では、自分から参加しようとする姿が見られた。少し離れた場所からではあったが、友達の様子に注目し、楽しんで体を動かすことができた。

### (2) 次の授業の改善点

全体の改善点	幼児がいろいろな表現方法で楽しく参加できるように、一人一人が発表できる場を設けるなど、幼児の表現やなりきった時の気持ちを全体にフィードバックする時間を作る。
個人の改善点A	よりイメージが豊かになるように、言葉かけを工夫していく。
個人の改善点B	興味・関心を引き出し、表現することへの意欲につなげるために楽しい活動を積み重ねていく。
個人の改善点C	次の課題として手話の模倣を教師と一緒に確認しながらできるようにする。
個人の改善点D	楽しんで活動に参加できているため、友達の動きに注目するよう支援をする。
個人の改善点E	見通しをもって安心して活動に参加できるよう絵カードなどを有効に活用する。また、好きな活動を取り入れ、活躍できる場面を作る。

### ※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- (9) 言葉による伝え合い 簡単な手話表現による、友達とのやりとりや表現を楽しむ。  
(10) 豊かな感性と表現 いろいろな方法で表現することの喜びを知る。

1 日時・場所 平成〇年〇月〇日 11:30～12:00 幼稚部〇年教室

2 活動設定の理由

本学級は、自分の気持ちを伝えたいという意欲の高い幼児が多く、幼児同士で関わり合うことを楽しんでいる。体験活動においては、幼児同士で関わり合いながら、自分なりの工夫を交えて遊ぶような姿が見られる。本学級は、読み聞かせを日常的に行っており、絵本に興味・関心をもつ幼児が多い。

本時は、幼児の多くが楽しみにしている遠足を題材とし、興味・関心が高い絵本を取り入れることにより、自分の気持ちを伝えたいという意欲や、幼児同士で関わり合うような力をさらに伸ばしていきたいと考えている。

※本活動で前提とする幼稚園指導要領5領域の内容に関連する事項

【人間関係】(5) 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。

3 本時の目標

共通目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容を知る。(知識・技能の基礎)</li> <li>・登場する動物になりきって、友達や教師とのやりとりを楽しむ。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標A 3歳児 聴力(右118左105)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容を理解することができる。(知識・技能の基礎)</li> <li>・活動の流れに沿って友達や教師と一緒に楽しむことができる。(学びに向かう力・人間性等)</li> </ul>
個人目標B 3歳児 聴力(右132左92)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容や登場人物を理解することができる。(知識・技能の基礎)</li> <li>・順番を守るなど、友達の動きに合わせてながら活動を楽しむことができる。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>
個人目標C 3歳児 聴力(右117左124)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容や登場人物を理解することができる。(知識・技能の基礎)</li> <li>・絵本に登場する動物を自分で選び、友達や教師とのやりとりを楽しむことができる。(思考力・判断力・表現力の基礎)</li> </ul>

4 展開

時間	幼児の活動	教師の指導と支援	準備等
3分	○集まって挨拶をする。	○興味・関心をもてるよう遠足の写真を示す。	
10分	○絵本の読み聞かせ	○幼児が絵本の見える位置に座るよう言葉かけをする。 ○幼児と対話しながら絵本を読み進める。	絵本 「うしちゃん えんそく わくわく」
15分	○遠足ごっこ シート滑り、ボール投げ、なわとび	○安全に配慮をしながら遊具を配置する。 ○幼児一人一人の理解状況に応じてそれぞれの用具の扱い方の見本を示す。 ○一人ずつ活動し、待っている幼児には、他の幼児の活動に注目するよう言葉かけをする。 ※自立活動内容に関連する事項 (3) 人間関係の形成 エ 集団への参加の基礎に関すること。	・シート ・ボール ・かご ・なわとび
2分	○集まって挨拶をする。	○次の日も同じ活動をするを伝え、次回も期待感をもてるような呼びかけをする。	

## 5 評価の観点

### (1) 本時の評価

全体の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場する人や動物の動きや、物語全体の流れを理解することができた。</li> <li>・友達や教師と一緒に楽しんで活動することができた。</li> </ul>
個人評価A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容を部分的に理解することができた。</li> <li>・友達や教師の動きに合わせてながら自分がやりたいを活動を楽しむことができた。</li> </ul>
個人評価B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容を概ね理解することができた。</li> <li>・友達や教師の動きに合わせてながら、順番を守って活動を楽しむことができた。</li> </ul>
個人評価C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の内容を絵や手話を交えながら概ね理解することができた。</li> <li>・登場する動物を自分で選び、動物になりきり、友達や教師とのやりとりを楽しむことができた。</li> </ul>

### (2) 次の授業の改善点

全体の改善点	・幼児が主体的に活動できるよう支援する。
個人の改善点A	・各々の活動の中で、回数を決めて終わりが分かるようにする。
個人の改善点B	・各々の活動に見通しが持てるようゆっくりと扱い方を示して理解できるようにする。
個人の改善点C	・絵本の登場人物が誰だったか、活動後の気持ちを確認する。

### ※本活動における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- (1) 健康な心と体                      体験活動（シーツ滑り、ボール投げ、なわとび）
- (9) 言葉による伝え合い              絵本「うしちゃん えんそく わくわく」の読み聞かせ

埼玉県特別支援教育教育課程編成要領「特別支援学校編幼稚園」改訂協力委員名簿

【特別支援学校塙保己一学園】

佐野 貴仁 校長  
遠山 ミエ子 教諭  
山越 周子 教諭  
松居 綾子 教諭

【特別支援学校大宮ろう学園】

伊藤 えつ子 校長  
佐藤 理恵子 教諭  
中村 由佳 教諭  
小林 翼 教諭

【特別支援学校坂戸ろう学園】

阿部 裕子 教諭  
後藤 かおり 教諭  
西村 和幸 教諭

【特別支援教育課】

金子 功 課長  
小林 直紀 主幹兼主任指導主事  
橋本 晋一 主任指導主事  
島宗 徹 指導主事

発行者 埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課  
平成30年3月27日 発行